

CSR Report 2011

Corporate Social Responsibility Report

Our Best Solution for
Your Best Smile!



KONOIKE
KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD.

私たち鴻池組は “わかりやすいエコ”

を提案します



エネルギーを使いすぎていませんか？
メンテナンス費用が、かかりすぎていませんか？
建物を長年に維持できる体制が整っていますか？
鴻池組は、より安全で快適な空間づくりをめざし、
良質なストックを、次世代へとつなぎます。

Our Best Solution for Your Best Smile
最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に！
鴻池組
KONOIKE CONSTRUCTION CO.,LTD.
URL: <http://www.konoike.co.jp>

未来が変わる。日本が変える。
25 

鴻池組はチャレンジ25キャンペーンに参加しています。

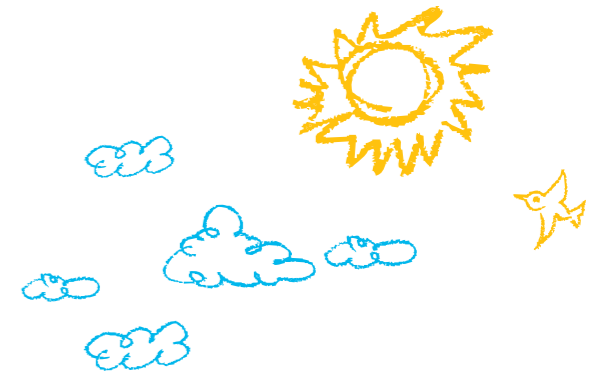
株式会社 鴻池組
<http://www.konoike.co.jp/>
〒530-8517 大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ
TEL.06-6343-3500

本レポートの環境配慮について
用紙は、適切に管理された森林から出荷された木材を含む森林認証紙を使用し、
インクは、VOC（揮発性有機化合物）の発生を低減する大豆油インクを使用、
有害廃液を排出しない水なし印刷方式を採用しています。

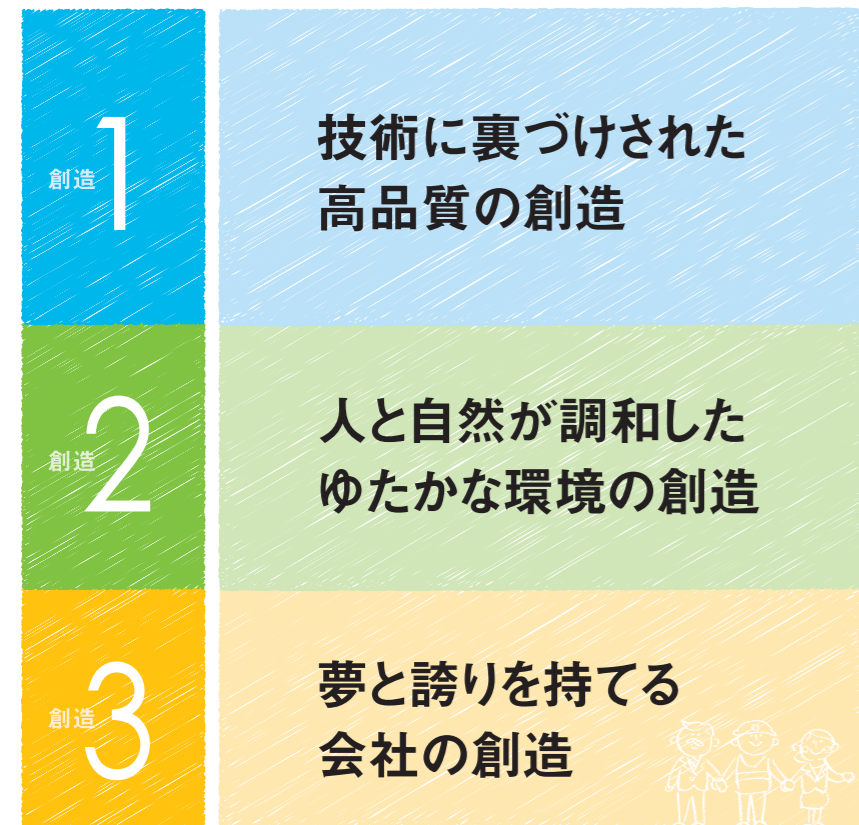


最高の現場力をもって お客様の笑顔を最大に!

チームKONOIKEの総力を結集して、高品質な施工で長期保証を実現



鴻池組のCSRの柱 イノベーションの創造



- お客様を笑顔に
- 施設を利用される方を笑顔に
- 地球を笑顔に
- 生きものたちを笑顔に
- 地域の人びとを笑顔に
- 現場で働く人びとを笑顔に
- 従業員とその家族を笑顔に

Contents

鴻池組のCSR/目次	01
トップメッセージ	03
東日本大震災への対応	05

クローズアップ 京都産業大学 施設工事	07
お客様満足度向上への取り組み	09
ストック型社会への対応	11
環境関連技術・実績	13
環境保全への取り組み	15
生物多様性への取り組み	17
地域社会とのつながり	19
協力会社との協働	21
働きがいの向上のために	23

つねに社会から必要とされ、
社会に貢献できる鴻池組

編集方針

鴻池組は、協力会社の方々も含めた「チームKONOIKE」として、「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!」というテーマを掲げており、本報告書はこのテーマに沿って、鴻池組が、事業に関わるすべての人びとを笑顔にするために、どのような活動を行ってきたかという視点でまとめました。そのため、関係者が鴻池組の活動にどのような印象・感想を持たれたかを重視し、その声をできるだけ多くとりあげるよう心がけました。幅広くさまざまなお立場の方に、鴻池組が社会とどのような関わりを持つようとしているのかをご覧いただき、忌憚のないご意見をお聞かせ願えれば幸いです。

対象範囲

対象期間：2010年度(2009年10月～2010年9月)
ただし、当該期間以前の取り組みや以降の活動報告も一部掲載しています。
対象組織：株式会社鴻池組単体であり、関係会社は含んでいません。

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティレポートガイドライン 2006」
環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
日本規格協会「ISO26000」

発行時期

今回：2011年9月
次回：2012年3月発行予定

ホームページのご案内

鴻池組は適切な情報開示のためにホームページを開設し、事業活動や保有技術などに関する、より詳細な情報を提供しています。また、本報告書ならびにCSR活動そのものに関するご意見につきましても、ホームページからお寄せいただくことができます。

» <http://www.konoike.co.jp/>

信頼に応える体制づくり	25
企業の持続性を高めるために	26
情報マネジメント	27
安全マネジメント	28
皆様の声にお応えします	29
会社概要	30



Our Best Solution for Your Best Smile

レストランの「ソムリエ」はオーダーや好み、予算などを考えて、最適なワインを選んでくれます。私たちも知識、技術の全てを使い、まごころこめてお客様に満足いただける製品を提供したい。カッコよくいえば「ものづくりのソムリエ」でありたいと思っています。

お客様の「最高の笑顔」のために。



KONOIKE
KONOIKE CONSTRUCTION CO., LTD.



代表取締役社長

高田 守弘

東日本大震災により
尊い命を失われた方々に
深く哀悼の意を表しますとともに、
被災された皆様方に心より
お見舞いを申し上げます。

最高の現場力
をもつてお客様
の笑顔を最大に

震災への対応

震災発生直後から、本社、東京本店、東北支店に設置した対策本部と全国の本支店をテレビ会議で結びながら、被災状況の把握と対応策の協議を連日行いました。被災地域が非常に広範囲であったため、各方面から調査や支援の要請がございましたが、従来からのお客様のみでなく、新たなお客様や自治体様の復旧も広くお手伝いすることができました。

こうした迅速な対応を支えたのは、従業員の適時・適切な判断でした。東北支店をカバーする東京本店は、震災後ただちに先遣隊を仙台へ派遣しました。また、直接の被害を受けなかった大阪本店、名古屋支店をはじめとする全国の拠点は、即座に救援物資の手配と発送に向けて動き出しました。さらには、被災地の工事事務所職員が自発的に地域の復旧に動いたことなどもあり、私を鴻池組の社長と知った地域住民の方から、直接にお礼の言葉をいただく場面も数多くございました。

企業としてCSR推進の方針を明確に打ち出してから4年以上が経過しますが、今回のような非常時に、各セクション、各従業員がすぐにアクションを起こすことができたのは、「企業が果たすべき

責任」「企業人としての責任」について、普段から具体的に思い描いているものがあつたからだと思います。

加えて、協力会社の皆様も、かねて標榜している「チームKONOIKE」の名に相応しい動きで、復旧業務を支えてくださいました。経営トップとして深く感謝申し上げます。

自然の恵み、そして脅威

今回の災害を報じる文章には「未曾有の」「想定外の」といった表現が多く見られました。複数のプレートの境界に位置し、世界でも有数の地震多発国であるわが国にあって、私たち建設業も地震がもたらす被害について、過去の教訓を技術へと昇華し、さまざまな対策を講じてまいりましたが、東北沿岸部の都市、町がなす術もなく津波に呑み込まれていく様子や、その後の被災状況の報道を見聞きするにつけ、自然の猛威は到底人知の及ぶところではないとの思いを強くしました。

鴻池組はCSRに関する方針のひとつに「人と自然が調和したゆたかな環境の創造」を掲げており、平成23年1月に「生物多様性行動指針」ならびに「グリーン調達方針」を定め、自然や環境との関わり方について、新たなステップを踏み出したところでした。

こうしたサステナビリティやエコロジーに関する取り組みは、私たち人類が、いかに持続的に自然の恵みを享受していけるかという考えに立脚していますが、自然が与えてくれるのは恵みばかりではありません。自然は、時に耐えがたいほどの厳しい試練をも私たちに与えます。インフラ整備を通じて社会の安心と安全に責任を負う私たちにとって、決して忘れてはならないことでしたが、自然の脅威に対抗する技術を高めれば高めるほど、その視点を見失いがちであったかもしれません。

自然の恵みを持続的に生活に活かす技術、自然がもたらす脅威から人々を守る技術の双方について、さらに研鑽を積んでまいります。

鴻池組がなすべきこと

ひとくちに「企業の社会的責任」と申しましても、企業は、さまざまなステークホルダーに対し多くの責任を負っています。中でも、当社は、「環境に直接手を加える」「地域に溶け込んで仕事を行う」という建設業の特性から、「環境との共生」「地域社会との共生」の2つのテーマについて、特に大きな責任を負っていると考え、これらを重視してまいりました。震災からの復興は、環境とコミュニティの再生そのものとも言えますので、社を挙げてこれに取り組む所存です。

また、津波被害の大きかった地域において、膨大な量に及ぶガレキの撤去が懸案事項となっておりますが、廃棄物処理に豊富な実績と経験を持つ当社の技術力を大いに活かしたいと思っております。他にも、今回の地震において効果が実証された液状化対策技術、耐震改修技術などに関して、持てるノウハウを最大限に

発揮し、被災地の復興ならびにその他の地域の防災・減災の推進に貢献してまいります。

ニーズの変容

今回の震災により、国の防災とエネルギーに関する計画や民間のBCP、設備投資計画は大きく見直しを迫られることと思います。加えて、節電の呼びかけが全国に波及する中で、私たち日本人に過去の過剰さを見つめ直そうという気運が芽生えたことは、さらに大きな変化と言えるかもしれません。今後しばらく節約ムードが支配的になるというような限定的な話ではなく、「成長」や「発展」というものに対する見方が大きく変わる可能性があると感じております。

当社はこれまで「顧客第一主義」を掲げてまいりましたが、今後はお客様のニーズ、満足感そのものが大きく変容する時代が来るということを念頭に、敏感にそれを察知しながら事業を行ってまいりたいと思います。

お客様を笑顔に

「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に！」

協力会社の方々を含めた「チームKONOIKE」として、昨年度来掲げているテーマです。

建設産業の一員として、東日本の復興のため、ひいては日本全体の活性化のため、私たち鴻池組は、技術革新を進めながら、皆様に満足していただける高品質な社会資本をご提供いたします。

私たちがつくり出す「安心と安全」が、私たちが取り戻す「環境」が、私たちがお客様や地域の方々とは結ぶ「コミュニケーション」が、「最大の笑顔」につながることを信じて。



社 是

- 【誠実】 時代の推移、社会の変化にかかわらず我々の行動の原点であり、人間関係の根幹である。
- 【懇切】 品質保証と顧客満足は「もの創り」の絶対条件である。プロ意識を持ち、きめ細かい配慮とシステムティックな対応が求められる。
- 【敏速】 企業にとって「速さは力」である。事業の企画・立案・計画・実行を素早くこなさなければならない。

経 営 理 念

- ・環境と共生し「もの創り」を通して社会に貢献する。
- ・「品質保証」と「顧客満足」を提供し、さらなる相互信頼のもとに持続的な事業活動を実現する。
- ・「夢と誇り」を持てる会社を創造する。

東日本大震災への対応

大規模な地震とそれによって引き起こされた津波により、未曾有の激甚災害となった東日本大震災。震災被害に対する鴻池組の「これまで」と「これから」をご報告します。

震災の発生と初期対応

●地震発生当日



▲テレビ会議による対策本部間協議

平成23年3月11日(金)午後2時46分、三陸沖を震源として発生した「東北地方太平洋沖地震」は、東北・関東地方の各地に甚大な被害をもたらしました。

当社は、地震発生直後に本社および東京本店に対策本部を設置し、携帯メール他による役職員の安否確認、現場の被災状況確認に着手しました。また、同日、東北支店に現地対策本部を立ち上げ、テレビ会議による対策会議を実施し、被災状況の把握と今後の対応策について協議を行いました。

●地震発生翌日から



▲支援物資の積み込み状況

地震発生の日には、施工中の現場の安全確認、お客様の現況確認と支援要否の打診、元施工物件の被災状況調査などを実施し、応急復旧作業を行いました。

当社役職員とその家族については、早い段階で無事を確認することができ、東北・関東地方における当社の稼働現場についても大きな被害は確認されませんでした。

●お客様への対応

その後は、お客様からの要請にお応えして復旧工事や建物診断を行いました。震災発生後3カ月で200件を超える復旧工事を行い、現在も引き続きお客様の要請に応じた対応を実施しております。

●震災からの復興に向けて

今回の大震災では、多くの建物やインフラが甚大な被害を受けました。インフラの復旧や安心・安全な街づくりといった震災復興について、あらゆる面でわれわれ建設業には、大きな期待が寄せられています。当社もこうした期待に応えるべく全社を挙げて復興活動に取り組んでいきます。

被災地に対する当社の取り組み

●宮城県多賀城市での取り組み

津波による大きな被害を受けた被災地では、行方不明者の捜索や緊急通路の確保のため、辺りを埋め尽くしている災害廃棄物の除去が急がれました。

当社も震災直後から岩手県山田町、宮城県多賀城市、宮城県亘理町などで災害廃棄物の撤去に取り組んできました。現在では道路や民地上のがれきの撤去は進み、壊れた家屋や工場の解体が進められています。

一次仮置き場に集められた災害廃棄物や津波堆積物は、今後県が設置する二次仮置き場に運び込まれて処理される予定ですが、各市町村では地元の事情でさまざまな問題を抱えており、早期処分が求められています。

宮城県多賀城市では一次仮置き場の確保に苦慮され、やむを得ず住宅地や学校に近接した場所に集積されましたが、臭気や粉じんのほか衛生上の問題による市民の健康被害を未然に防ぐため、独自に中間処理を進めていくことになりました。

当社はこれまで取り組んできた環境分野の技術力を結集し、被災地の復興に機動的に取り組めるよう、4月には震災廃棄物処理のプロジェクトチームを立ち上げ、被災地での廃棄物分別試験の実施や技術提案を行ってきました。そして7月には、これまでの廃棄物処理の実績や実験データをもとに多賀城市のプロポーザル「多賀城市災害等廃棄物中間処理業務」企画提案に応募し、審査の結果、優先交渉権者に選定されました。

現在は中間処理の早期着手に向けて業務計画を策定しています。被災地の一日も早い復興を願い、来年秋の処理完了を目指して全力で取り組んでいきます。



▲多賀城市内一次仮置き場に集められた廃棄物

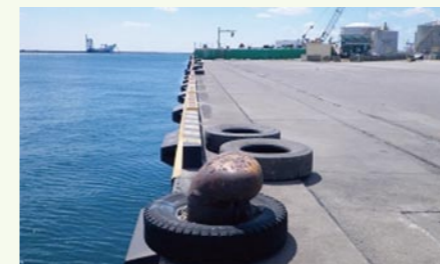
●液状化被害防止への取り組み

東日本大震災では、液状化により各地に甚大な被害が発生しました。当社は、砕石ドレーン工法やGeo-KONG(ジオング工法)を開発し、液状化被害の防止に取り組んでいます。東日本大震災の発生後も、それらの工法による液状化対策を行った場所では液状化の発生が防止され、その有効性が確認されています。

砕石ドレーン工法は、地盤中に透水性の高い砕石柱を造成し、地震時に発生する過剰間隙水圧を速やかに消散させることで液状化を防止する工法です。低騒音、低振動で周辺地盤に影響を与えることなく施工できるため、市街地や既設構造物の近傍での液状化対策に適用されてきました。この工法は、これまでも釧路沖地震、北海道東方沖地震や阪神・淡路大震災などの大規模地震で効果が確認されていましたが、今回の地震でも浦安市などの住宅地、利根川の河川堤防、小名浜港等の港湾施設などで液状化防止効果を発揮したことが確認されています。

一方、Geo-KONG工法(静的締固め工法)は、阪神・淡路大震災後に、より大規模な地震にも十分に対応できるよう、砕石ドレーン工法を高度化して開発した工法です。この工法は、砕石、再生砕石、砂などを静的に圧入して地盤の密度を増大させ、液状化を防止するもので、振動・騒音が小さいことから、市街地で経済的に液状化対策を行うことができます。今回の震災では、液状化が発生した浦安市などで、Geo-KONG工法による対策施工箇所では液状化が発生せず、その効果が実証されています。今後も液状化被害を防止するために、当社の技術を役立てていきたいと考えています。

【小名浜港4号埠頭の状況】



▲砕石ドレーン施工箇所



▲未施工の周辺部

●衛生状況改善への取り組み

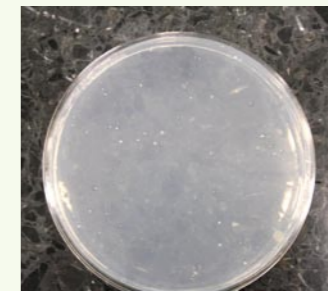
東日本大震災の被災地において、避難所のトイレは衛生面で深刻な問題を抱えていました。

当社は株式会社日本バイオマス研究所と共同で、簡易な「し尿処理方法」として、BP2を消臭や抗菌に用いる用途開発を行い、被災地の避難所などの衛生状況改善に役立てていただけるよう、在庫分1トンを無償提供することを決定し、宮城県塩釜市施設および茨城県神栖市内施設に提供しました。

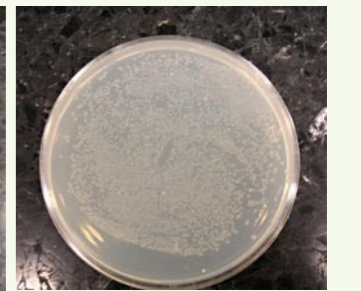
BP2とは、日本バイオマス研究所が発見した、新種微細藻類「バイノス」を増殖して製造された汚泥削減剤で、このバイノスには、し尿を無害化する微生物を活性化させるビタミンB類やアルギン酸オリゴマーなどを豊富に含む特徴があります。

仮設トイレのタンクやし尿の溜池にBP2の粉末を撒くだけで、脱臭効果の発揮や病原性微生物の増殖を抑制することが可能となります。仮設トイレのタンク内(容量100L)に200~400gのBP2を添加して、効果の実証を行ったところ3日目から脱臭効果が確認され、タンク内の100ppm程度のアンモニア濃度が約60~90%低下しました。また、BP2には脱臭以外に病原性菌の抗菌効果もあり、結核などの病原菌となりうるコリネバクテリウムに対する抗菌効果をプレート実験で行った結果、BP2を添加したプレートは以下の写真のとおり増殖を抑制することができました。

上記試験結果から、当社はBP2のし尿汚泥に対する脱臭・抗菌効果が十分期待できるものと考え、今後いろいろな場面でその効果を活用していきたいと考えています。



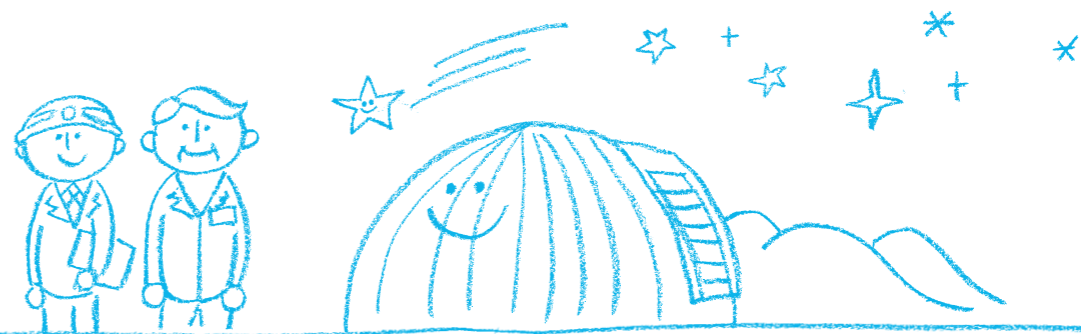
▲BP2添加あり



▲BP2添加なし

クローズアップ 京都産業大学 施設工事

お客様の視点に立ったきめ細やかな提案で喜んでいただいた事例として、京都産業大学様施設工事への取り組みをご紹介します。



お客様の視点に立った提案で快適な教育環境をつくり上げる

京都産業大学様は、9つの学部と8つの研究科を持つ大学院が一つのキャンパスに集まっている総合大学です。1965年の創設以来、将来の社会を担って立つ人材の育成を目指し、これまで12万を超える卒業生を社会へ輩出してこられました。

鴻池組は1994年の第3研究室棟新築工事を皮切りに、8号館の増築工事や11号館、第4研究室、神山天文台、15号館新築工事など、主要な施設を施工してきました。その一方で、老朽化が進む建物の改修工事にも携わっています。改修工事は設計から任せていただき、大学様の「学生の立場に立った改修をしたい」という思いをしっかりと受け止めながら工事を進めています。そうして大学様とともに作り上げた食堂やトイレは、「きれいになって利用しやすくなった」と、学生の皆さんにも高く評価されているそうです。

教育施設の工事に携わるにあたり、教育活動に支障をきたさないよう、騒音や振動といった環境対策はもちろんのこと、大学様や施設を利用する学生、教職員の皆さんの視点に立って提案をする姿勢は欠かせません。お客様の気持ちを汲み取り、鴻池組がこれまで培ってきた技術やノウハウを駆使して、きめ細やかな改善提案を重ねています。

今後も、さまざまな工事を通じて高度な技術力と臨機応変な対応力を発揮し、京都産業大学様の期待にお応えしてまいります。



▲8号館(福利厚生棟)



▲第4研究室棟



▲11号館(化学学部)



▲車椅子利用者トイレ



▲エスカレーター乗降口(8号館側)

Voice

現場所長の声



鴻池組建築工事事務所長
東影 正博

■ 苦労した分思い入れの深い現場に
今まで「良好な関係」が築かれてきた歴史があるがゆえのプレッシャーを感じながら、自然と調和した美しいキャンパスの中で、15号館の建設工事に着手しました。「できるのか?」と思う難しい条件でしたが、京都産業大学様の温かいご指導のもと、良質な建物と「良好な関係」が残せたと感じ、特に思い入れの深い現場となりました。

Voice

営業担当の声



京都支店 営業部 主任
西 孝

■ これからも大学様躍進の支えに
京都産業大学様から初めての工事をご依頼いただいたのは私が入社した年でした。卒業生でもある私が担当になったのも、何かのご縁だと思っています。母校の工事に携われる喜びとやりがいを感じつつ、これからも人とのつながりを大切にしながら、より多くの工事を通じて、躍進される大学様の一助になりたいと考えています。

Voice

お客様の声

きめ細やかな改善提案に感心

京都産業大学は創設当初、経済学部と理学部の2学部体制でしたが、学部の統廃合や新設を行い、9学部と大学院8研究科にまで拡大してきた歴史があります。本館1棟だった学び舎も、今は学生寮なども含めて45棟になりました。

新しい施設を建設する際や、老朽化した建物を改修する際、管財部ではいつも学生の利便性と教職員の使い勝手を考えます。民間企業なら設備を建てれば、そこから収益が生まれますが、大学の施設は収益を生み出すものではありません。学生が学びやすく、教職員が使いやすい施設を建てるのが大切です。そうした思いを一番理解してくれているのが鴻池組だと感じています。鴻池組は、私たちの希望をできる限り尊重する形で、設計事務所と協力して、よりよい施工方法や使い勝手の良い提案をしてくれています。たとえば、神山天文台の地下1階にあるサギタリウスホールの照明については、蛍光灯の光が直接観客席に当たらないよう、照明器具にすりガラス板を取り付けて間接照明のようにしてはどうかとの提案をもらいました。そのホールでは宇宙の立体映像を上映するため、観客席は柔らかい光で照らした方が雰囲気壊すことなく観覧していただけるという理由からです。ほかにも、夜間の天文観測を考慮し、建物内部の光が外に漏れないよう遮光カーテンを設置したり、観測員が昼間でも心地よく仮眠できるよう、サッシの内側に遮光扉の設置を行うなど、使いやすさを考えた提案がありました。こうしたきめ細やかな対応に私たちが学ぶことも多くありました。神山天文台は2009年10月に完成し、私立大学で国内最大の天文台として、これまでトラブルなく稼働しています。昨年は約5,000人もの方々が訪れ、新しい星が発見されるなど、成果も出はじめています。

建物の品質を高めようとする姿勢に加えて、工事中は安全だけでなく、騒音や振動の低減など、教育環境に配慮していただいている点も安心して工事を任せられる理由です。

調整力に信頼を寄せる

私は、工事は現場を仕切る所長の人柄や指示の仕方でも成功するかどうかが決まってくると思っています。鴻池組の所長はそれぞれ個性がありつつも、人当たりのよい方ばかりです。特に15号館の新築工事を担当していただいた東影所長は、私たちの期待を超える、素晴らしい対応をされました。15号館の建設は鴻池組に依頼することが決まったものの、実はその四方で他の建設会社が工事を進めており、学内では鴻池組への発注を懸念する声もありました。他工区との調整を行い、すべての工事を工期どおりに完了させるのは、非常に難しいと思われていたからです。私自身も調整の難航を覚悟しましたが、その時、私たちの代わりに調整役を担ってくれたのが東影所長でした。工事はすべて工期どおりに完了。より一層、信頼が高まったことは言うまでもありません。

創立50周年を迎える2015年に向けて、当校では今、新たな施設の建設を計画しています。鴻池組にはこれからも、新しい時代を迎えつつある当校をサポートしていただけるよう期待しています。



京都産業大学
管財部 部長
足達 栄樹 様

● 京都産業大学様 主な工事

竣工	工事名
1995年	京都産業大学第3研究室棟新築工事
1997年	京都産業大学8号館増築工事
2000年	京都産業大学11号館新築工事
2002年	京都産業大学第4研究室棟新築工事
2004年	京都産業大学5号館建替工事
2009年	京都産業大学神山天文台新築及び本館前整備工事
2010年	京都産業大学15号館新築工事

● 京都産業大学

京都府京都市北区上賀茂本山
<http://www.kyoto-su.ac.jp/>



▲天文台ドーム



▲神山天文台



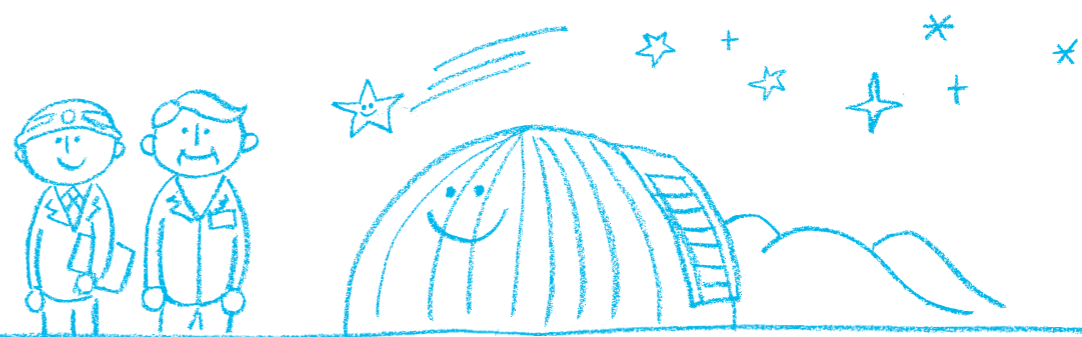
▲15号館(総合生命科学部)



▲15号館光庭

お客様満足度向上への取り組み

鴻池組が「顧客第一主義」の具現化を目指して設置した「ソリューション会議」と「企画営業設計グループ」の活動を中心に、お客様満足度向上への取り組みをご紹介します。



ソリューション会議の役割

2009年5月に発足したソリューション会議は、鴻池組が掲げる顧客第一主義に基づき、お客様のニーズをより広く、迅速かつ的確に把握することで、企業としてのソリューション能力（お客様が抱えられている問題の解決力）を高めていくことを目的としており、お客様のご要望に触れる機会の多い営業部門のメンバーを中心に、工務・設計・技術部門のメンバーを加えて構成しています。

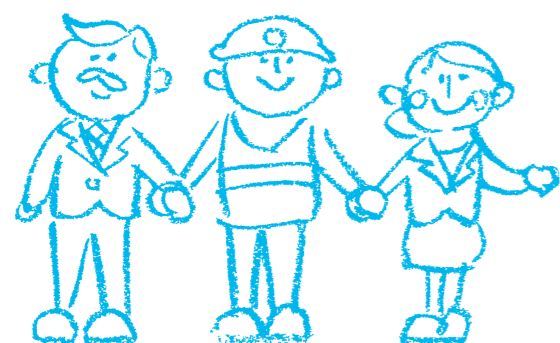
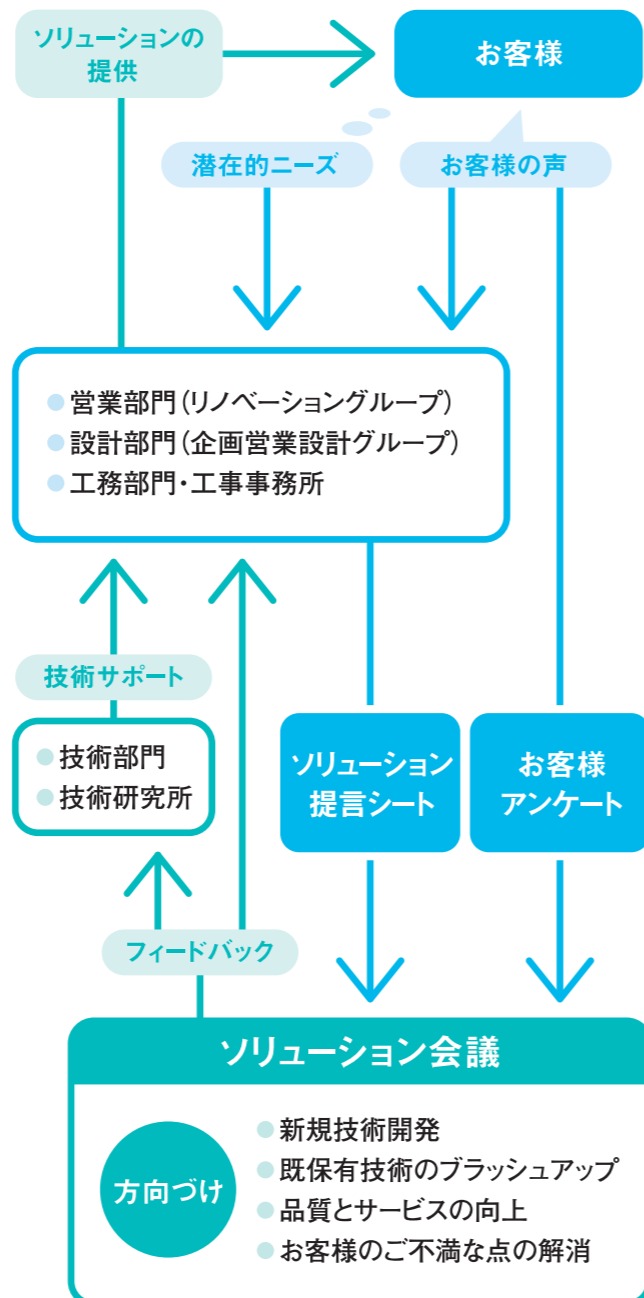
営業担当が収集したお客様のニーズは「ソリューション提言シート」の形でソリューション会議に報告されますが、お客様が明確に語られたニーズのみでなく、当社の営業担当がおつきあいをさせていただきながら察知したものの、市場動向や行政の方針に関するものといった潜在的ニーズも含まれます。これらの情報をもとに、ソリューション会議で新規技術開発や既保有技術のブラッシュアップ、品質管理手法やサービスのあり方についての討議と方向づけを行い、各部門へのフィードバックを行う仕組みとしています。

こうしたソリューション能力アップに向けた活動の一環として、さらなる提案力向上を目指し、2009年10月に建築設計部門内に企画営業設計グループを新設しました。同グループは設計部門の中でも、よりお客様目線に立った提案を行う役割を担っています（P10 活動事例記事をご参照願います）。

また、フロー型を脱却してストック型を志向する社会の変化に合わせ、お客様の資産価値向上に向けた積極的な提案を行うことを目的に、2010年4月には建築営業部門内にリノベーショングループも新設しました。

さらには、このような当社の取り組みが、真にお客様の要望に適ったものかを継続的に検証すべく、2011年6月から「お客様アンケート」の制度をスタートしました。

お客様ニーズの把握、それに基づくソリューション能力のアップ、これらの活動がお客様ニーズと真に合致しているかの検証という一連のサイクルの中心的役割を担っているのがソリューション会議です。



企画営業設計グループ活動事例

企画営業設計グループは常にお客様の視点に立ち、価値あるソリューション（お客様の問題解決）とサービスを提供することで、お客様に満足していただける活動を心がけています。

今回、「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!」をテーマに、お客様との密接なコミュニケーションに基づく潜在的ニーズの把握にまで努めた事例として、『阪南大学新教室棟（2号館）』への取り組みをご紹介します。

『阪南大学新教室棟（2号館）』は、日建設計様、日建設計コンストラクションマネジメント様（以下日建設計）のコンサルティングのもと、4社の建設会社によるプロポーザルコンペの結果、当社が設計施工で受注しました。

今まで鴻池組が阪南大学（以下大学）様の設計を担当したことは一度もなく、初めて日建設計様の指導のもと設計を担当することになりましたが、大学様にとっても今までに取り引きのない相手への発注ということで、不安を抱えてのスタートであったものと思われました。

『誠心誠意』、『懇切丁寧』を心がけて、大学様、日建設計様と打ち合わせを行っていくうちに徐々に信頼関係も深まり、「新教室棟をより良い建物にしよう」という目的を共有しているという意識が日増しに強くなっていきました。

今回新築する教室棟に求められている要求内容を整理し、実際に使用される先生方の意見をヒアリングするなど潜在的なご要望も汲み取り、情報を着実にインプットして設計を進めていきました。また、工事に入ってから設計変更となるご要望もありましたが、「最高の現場力をもってお客様の笑顔を最大に!」を合言葉に、現場担当者との調整をし、「阪南大学様のご要望に何とかお応えしたい」という一心で対応し、最終的にご満足いただける建物を完成させることができました。

お客様の評価

竣工後、阪南大学様から「タイトな設計・工事期間にもかかわらず、私たちからの多種多様な要望に真摯に取り組んでいただきました。また、期間中、学生および教職員、近隣住民への配慮も行き届き、滞りなく竣工を迎えることができました。現在は学生の勉学の場として大いに活用しています」とのコメントをいただきました。

企画営業設計グループではこのようにお客様と向き合い、お客様のニーズの的確な把握に努め、今後も顧客満足を目指して取り組んでいきます。



▲新教室棟（2号館）



▲語学教室

● 阪南大学

大阪府松原市天美東5-4-33
<http://www.hannan-u.ac.jp/>

阪南大学新教室棟（2号館）

建築主：学校法人阪南大学
 所在地：大阪府松原市天美東5-4-33
 建物規模：RC造3階建

ストック型社会への対応

フロー型社会からストック型社会へ。建物やインフラを長く大切に使ういただけるように、鴻池組が保有する技術と取り組み事例をご紹介します。



郡山開成学園耐震補強工事

郡山開成学園様には、「粘弾性ダンパーブレース」による耐震補強提案を多くの校舎にて採用していただきました。東北地方太平洋沖地震を通じて、その補強効果が高く評価され、さらなる厚い信頼をお寄せいただいています。

郡山市は福島県の中央部に位置する人口約34万人の都市です。郡山開成学園様は、昭和22年、郡山女子専門学院を創立され、戦後の荒廃した世相の中で、女性の高等教育の普及と向上の必要性を痛感された関口富現名誉学園長が「女性が一人の人間として自己を磨き、成長しうる場を創りたい」と切なる願いを込めて開学されました。現在は、大学院、大学、短大、附属高校、附属幼稚園を擁し、女子の総合教育学園として確かな学問研究と教養を備えた女性を社会に送り出しておられます。

2001年に附属高校体育館の耐震補強を、2003年より6カ年計画でその他の建物について耐震補強を計画されました。鴻池組はこれまでにキャンパス内の14棟の耐震補強工事を行い、保有技術である「粘弾性ダンパーブレース」による制振補強を主に採用していただきました。

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震により東北地方を中心に甚大な地震・津波被害が発生しました。郡山市でも震度6弱を記録し、多くの建物に地震被害が及びましたが、郡山開成学園様は高い防災意識を持たれ、2009年までにすべての補強工事を完了されていたため、大きな建物被害は発生せず、地域住民の一時避難場所としての機能も十分に果たされました。

●郡山開成学園

福島県郡山市開成3-25-2
<http://www.koriyama-kgc.ac.jp/>



▲本館



▲粘弾性ダンパーブレース(附属高校)

淡路町エレベータ新設工事

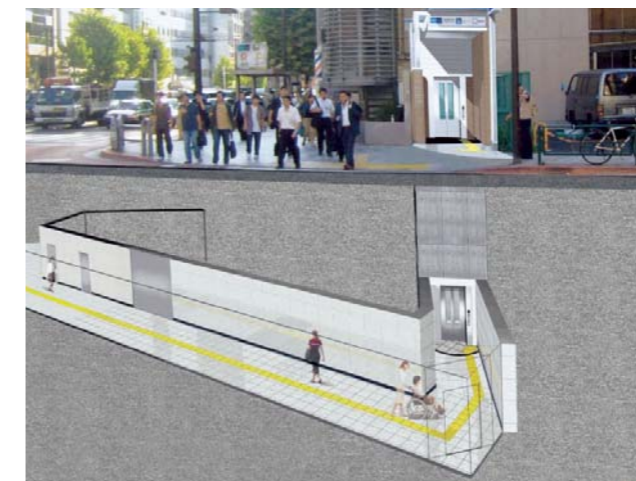
淡路町エレベータ新設工事は、東京地下鉄株式会社様が進めている「高齢者・障害者等の移動の円滑化」を目的とした丸ノ内線淡路町駅におけるエレベータ新設工事です。工事箇所は、交通量が非常に多い都心の靖国通りと外堀通りが交差する淡路町交差点直下です。

当初計画は、路面覆工による開削工法により既存構築と連絡する地下通路(幅3.3m、高さ3.4m)およびエレベータシャフトを築造する計画でしたが、掘削範囲には、大口径下水道等が存在しており、しかも、想定よりも浅い位置に埋設されていたことから、

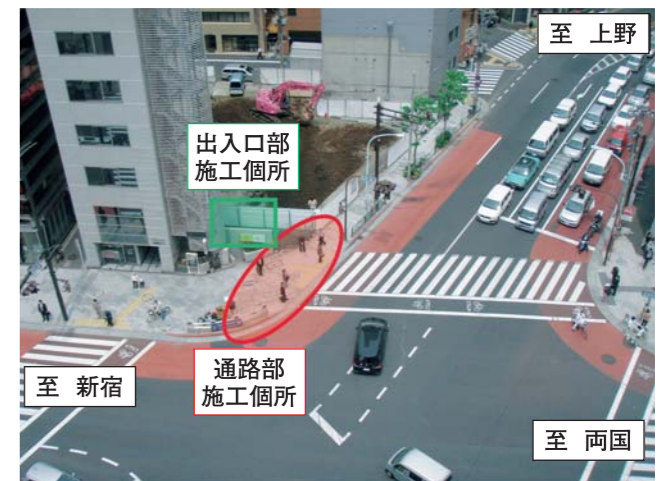
一部山岳工法を利用した非開削工法を採用することで、安全かつ工期短縮を図ることができました。

トンネル内空の変位も鉛直方向で最大1.0mm、水平方向で最大1.7mmという計測結果であり、周辺地山への影響を与えず掘削を完了できました。

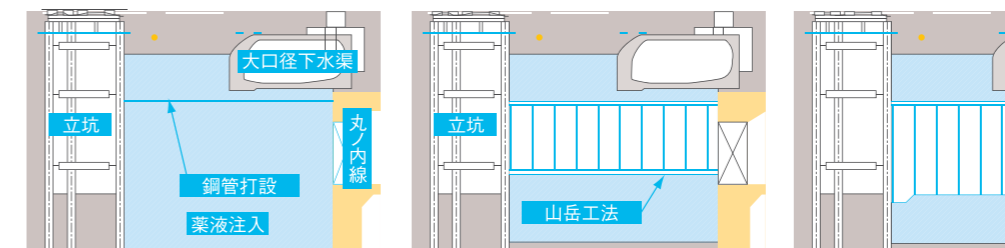
山岳工法を適用した非開削工法による掘削を採用し、地下通路構築を無事完了させることができたことは、今後の都心部における施工方法の一つとして参考になるものと考えられます。



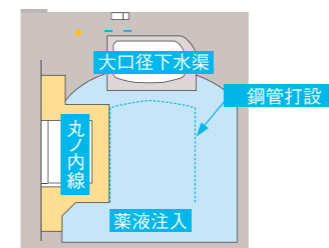
▲完成予想図



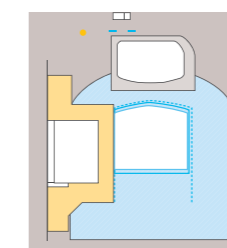
▲工事箇所現況



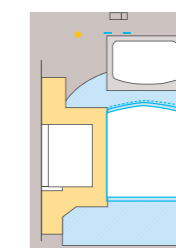
◀施工手順概要図



STEP 1 : 薬液注入・鋼管打設



STEP 2 : 上半掘削



STEP 3 : 下半掘削

Voice

お客様の声



郡山開成学園
 管財部 部長
 黒川 洋一 様

■ 鴻池組の技術と姿勢に感動

2003年に実施した「耐震化優先度調査」の結果を踏まえ、老朽化した建物について早急に耐震補強を行うことになりました。鴻池組には、強度型補強ではなく粘弾性ダンパーによる制振補強を提案され、女性らしく、しなやかに地震の揺れを吸収する工法に感銘を受け、少しでも耐震性能を高めたいという理事長の強い決意により採用いたしました。

3月11日の東北地方太平洋沖地震、その後の

度重なる余震を経験し、早期に耐震化率100%を達成して良かったと痛感しています。ダンパーによる補強建物にはほとんど損傷が見られず、鴻池組の高い技術力に感銘するとともに、震災後、福島第一原子力発電所の事故を受け、多くの企業が福島から撤退する中で、迅速かつ誠実に被害調査や補修工事に対応していただき、非常に感動しています。

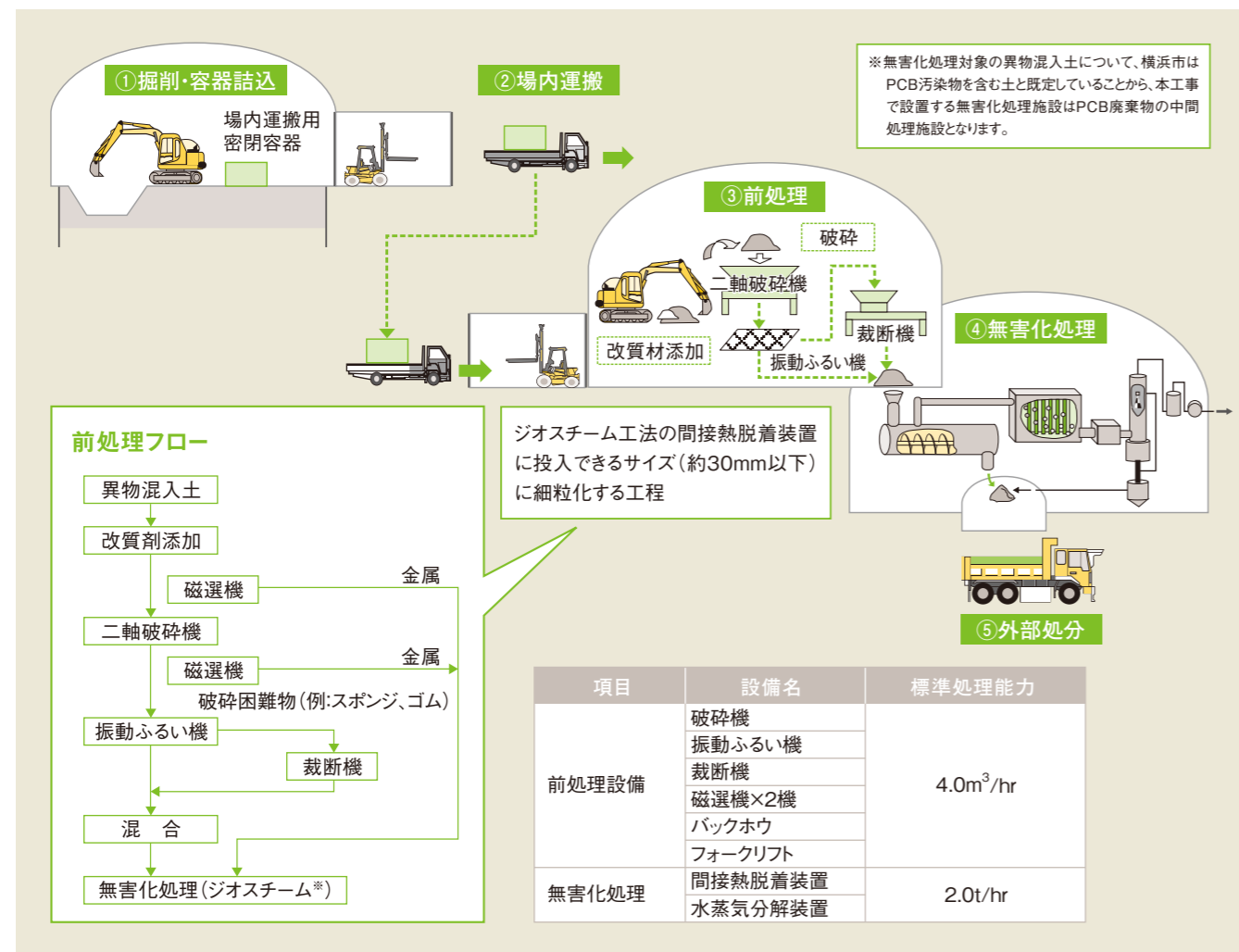
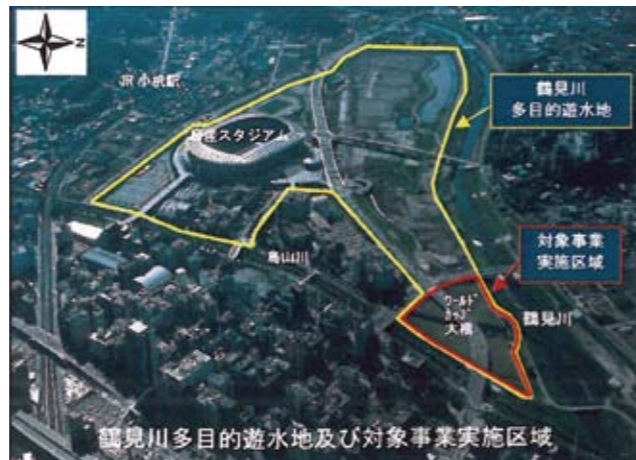
環境関連技術・実績

地球を笑顔にするために、環境を修復する技術、環境負荷を低減する技術について、
鴻池組は日々研鑽を積んでいます。



鶴見川多目的遊水地 土壌無害化処理事業

「鶴見川多目的遊水地土壌無害化処理事業」は、鶴見川多目的遊水地内に一時保管されている環境基準値を超過した異物（PCBなどや木材、プラスチック、がれき類等）混入土（約5,500m³）を、現地にて無害化処理するものです。事業完了後は処理施設を撤去するとともに、掘削箇所をきれいな土で埋め戻して原状を回復します。無害化処理は、間接熱脱着装置で分離した汚染物質を水蒸気分解装置で分解する「ジオスチーム工法」により行います。



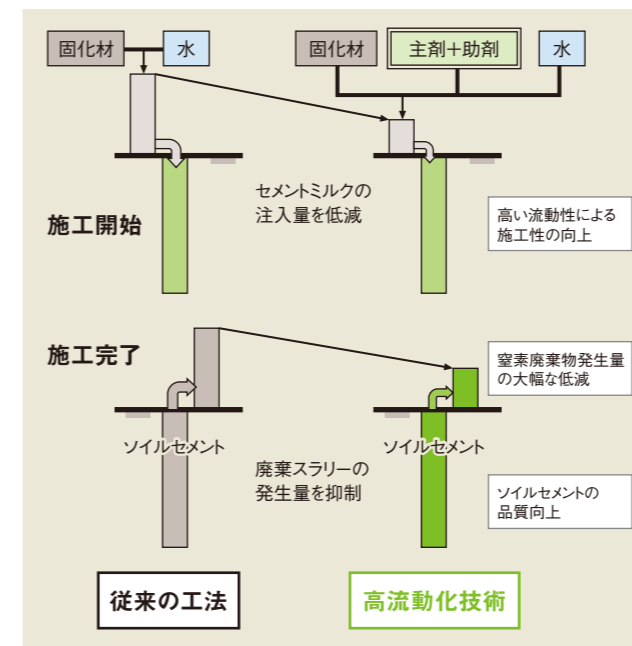
▲ジオスチーム工法による処理フローと主な設備仕様

環境負荷を低減したソイルセメント 高流動化技術(KK-050019-A) の施工状況

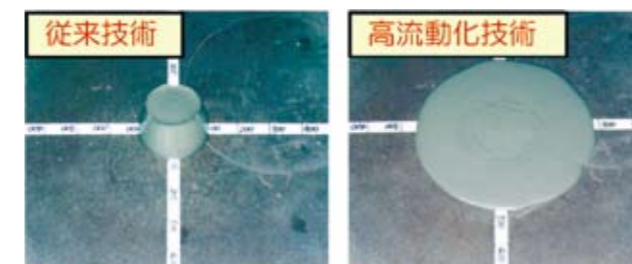
ソイルセメント造成工事では、セメントミルクの注入量に応じて大量に発生する廃棄ソイルセメントスラリー（建設汚泥）の処理・処分が問題となっています。

技術概要

本ソイルセメント高流動化技術は、2種類の流動化剤（主剤、助剤）を最適な比率でセメントミルクに併用添加します。



流動化剤を併用添加することで、セメントミルクの注入量が低減（建設汚泥の低減）でき、強度を低下させることなく、ソイルセメントに高い流動性と凝結遅延性を与えることができます。（特許第3554496号）



▲流動性の比較

特徴

- 環境負荷の低減
セメントミルクの注入量が減ることにより廃棄スラリーの発生量を、従来工法に比べ40～50%低減できます。材料製造を含めた施工に伴うCO₂排出量を吸収するために必要な植林の本数と比較すると、従来技術が462本に対して、高流動化により267本となります。
材料費（セメント・水・ベントナイト等）および、産廃処分費の削減により、工事費のコストダウンが可能となります。
- ソイルセメントの品質が向上
少ない水量で高い流動性を与えるため、高密度および均質で高品質（強度・止水性の高い）なソイルセメントが造成されます。
- 施工性の向上
ソイルセメントの流動性を高めることで、施工性が大幅に向上し、施工サイクルタイムが短縮されます。

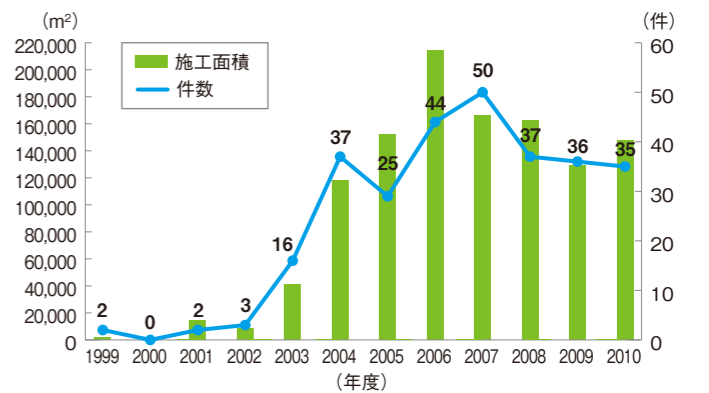
- 掘削トルクの低減
- 錐・攪拌翼などの洗浄効率の向上
- 鋼材の建込精度の向上



◀高流動化技術による施工状況

施工実績

施工実績（2011年3月末現在）としては、他建設会社にも採用いただき、年間35件程度と安定しています。



今後とも、環境負荷を低減できる工法として、広く活用を推進していきたいと考えています。

環境保全への取り組み

地球温暖化防止、廃棄物の減量とリサイクル、省エネルギー、環境配慮設計などについて、具体的な数値目標を掲げた取り組みを行っています。



～環境方針(抜粋)～

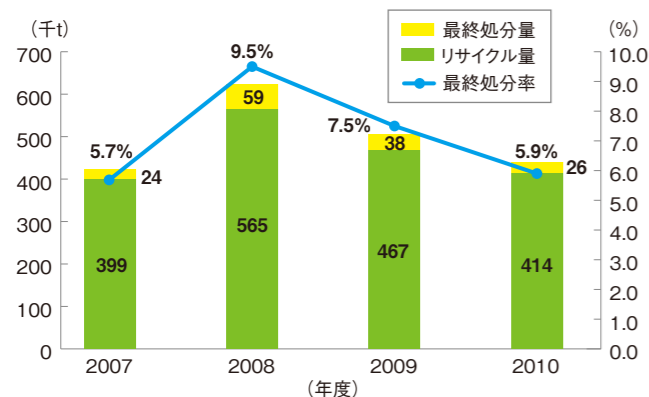
鴻池組は、建設活動を通じて地域社会との相互信頼を深め、環境と調和を図りながら、良き企業市民として果たすべき責任を全うするとともに、健全な環境を次代に引き継いでいくため、環境経営を推進する。

※環境方針の全文は、ホームページで公開しています。

建設廃棄物の排出状況

2010年度の建設廃棄物の総発生量は440千tとなり、2009年度より12.9%減少しました。

最終処分率についても、2009年度より1.6ポイント改善しました。今後も着工前の低減計画、分別排出を促進し、一層の排出抑制、最終処分率の低減に努めます。



内部環境監査・外部審査機関による審査

年1回内部環境監査員による監査、4月～6月には、本社による本支店監査を実施し、運用状況の確認を行っています。また、年1回外部審査登録機関により、ISO14001の規格に適合しているか審査を受けています。外部審査の結果、本年は観察事項3件、充実点1件となりました。



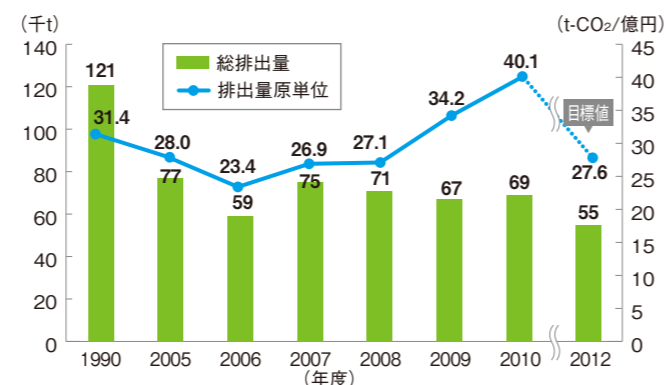
▲本支店監査(内部監査:30部門、88工事事務所)



▲外部審査

施工段階におけるCO₂排出量の推移

2010年度の施工段階におけるCO₂排出量原単位は、40.1t-CO₂/億円となり、前年度17.25%増となりました。大型土木工事の重機稼働、発生土の運搬増などが原因です。1990年度比で原単位は27.7%の増加、総排出量は、43%の減少となっています。2011年度は、発生土の再利用などに努めCO₂排出量原単位の削減に取り組んでいきます。



工事事務所の取り組み事例

維新百年記念公園陸上競技場新築工事(山口県山口市)では、CO₂排出抑制のため屋内照明の白熱電球を電球型蛍光灯に替え、6,204kg-CO₂の削減を行いました。また、汚泥産廃処理される基礎杭残土を地盤改良リテラ機を導入し、改良して埋戻し土として再利用しました。



▲電球型蛍光灯使用状況



▲地盤改良リテラ機による改良土の作成

2010年度環境目標と実績 (2010年1月1日～2010年12月31日)

省エネルギーの促進の中で、工期短縮(維持管理エネルギーの削減)については、土木・建築施工部門で目標を達成することができませんでした。土木施工部門では廃棄物の最終処分率、土木技術部門では技術評価点の獲得、建築設計部門では省エネルギー配慮設計について目標を達成することができませんでした。その他の目標については、良好な数値で目標を達成することができました。

【評価】○:目標を達成 △:目標は未達成だが昨年より成果がある ×:昨年より悪化 —:評価対象外

目的	2010年度目標	実績	評価	実施担当部門	
法令遵守	環境災害の防止	環境災害件数	0件	0件	○ 全部門
地球温暖化防止対策	社有車の燃料使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	56.4L/人	54.0L/人	○ 管理部門
	施工段階におけるCO ₂ の排出抑制	建設発生土の場内利用率	88%	99.1%	○ 土木施工部門
	燃料使用量の削減	土砂の搬入・搬出量の削減	—	11.6%削減	— 建築施工部門
廃棄物対策とリサイクルの推進	燃料使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	0.93L/t	0.88L/t	○ 機材センター部門
	用紙などを含む事務用品費の削減	2010年度予算の厳守	—	23.9%削減	○ 管理部門
省エネルギーの促進	廃棄物の最終処分量の削減	最終処分率前年度実績比1%削減	6.20%	14.6%	× 土木施工部門
	電気使用量の削減	前年度使用量を上回らないようにする	31.50%	23.2%	○ 建築施工部門
	工事施工における電力使用量の低減	94.7kWh/延㎡	93.1kWh/延㎡	○ 管理部門	
環境配慮設計の推進	12.5kWh/t	12.1kWh/t	○ 機材センター部門		
	工期短縮5%以上達成の工事件数を対象工事の昨年度実績以上とする	56.00%	35.10%	× 土木施工部門	
	工期短縮2%以上達成の工事件数を対象工事の50%以上にする	50%以上	31.8%	× 建築施工部門	
	総合評価入札における環境関連対応	提案事項の取りまとめ	—	179件	— 全部門
環境配慮設計の推進	環境配慮設計の提案	総合評価方式の入札案件のうち技術評価点が最高得点の80%以上を獲得	75%以上	64.0%	× 土木技術部門
	省エネルギー配慮設計	26.0点以上	25.1点	× 建築設計部門	
	リサイクル材採用配慮設計	14.0点以上	16.4点	○ 建築設計部門	
	環境関連工事の受注協力	環境目的に関する設計提案ポイント	38ポイント/百億円	55ポイント/百億円	○ 土木技術部門

※2011年度の目的および目標については、ホームページで公開しています。

グリーン調達 2011年2月1日より、グリーン調達方針を定め活動を開始しています。

～グリーン調達方針(抜粋)～

目的	調達の範囲
鴻池組は、企業市民としての責任を全うし、健全な環境を次代に引き継ぐために、環境経営の一環としてグリーン調達方針を掲げ、これを推進する。	本方針で取り扱うグリーン調達の範囲は、鴻池組が施工する物件に係わる資材、工法、技術に関するもの、ならびに店内で調達する事務用品とする。

※グリーン調達方針の全文は、ホームページで公開しています。

環境関連表彰の受賞 工事事務所で取り組んでいる、3R活動、CO₂削減活動などに対して下記の団体より表彰を受けました。

■ 2010年度社外表彰実績

表彰機関	賞名	工事名称
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	維新百年記念公園陸上競技場新築工事
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	福岡駅東側整地工事
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	江東区立有明小・中学校(仮称)新築工事
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	岐阜市北部地区産業廃棄物不法投棄事案特定支障除去等事業対策工事
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	米原BP工事
リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	会長賞	第二京阪三ツ島東工事

環境管理体制

社長を議長とする中央安全衛生・環境会議で管理方針・方策などに関する重要事項を決定します。環境マネジメントシステム機構図につきましては、ホームページで公開しています。

2 生物多様性への取り組み

鴻池組では、これまでも生物多様性の保全に配慮した事業活動を行ってきましたが、企業としての取り組み方針を明確にすべく、「生物多様性行動指針」を定めました。



生物多様性行動指針

基本理念

現存するあらゆる生物は、誕生以来のさまざまな「つながり」の結果として多様な「個性」を持つに至っており(生物多様性)、人もまたその恩恵に浴して生存している。しかしながら、特に人の活動が飛躍的に増大した結果、近年急速にこの「つながり」が途絶えはじめている。人の活動に伴う生物多様性への影響を考慮しなければ、われわれ自身の生存が脅かされる可能性も生じている。

鴻池組は、生物多様性の保全と持続可能な利用を環境経営上の重要な課題と位置づけ、ここに生物多様性行動指針を定め、健全な環境を次代に引き継ぐことの実現に貢献する。

行動指針

①設計・施工

- 生物多様性の保全と持続可能な利用に配慮した設計、施工を行うよう努める。
- 温暖化ガス排出抑制、建設廃棄物の発生抑制と最終処分量の削減、有害物質の取り扱い等、生物多様性を脅かす環境負荷の低減には、さらに重点的に取り組む。

②調達

- グリーン調達方針に基づき、生物多様性に配慮した調達に努める。

③研究・技術開発

- 生物多様性の保全と持続可能な利用ならびに環境負荷低減に寄与する工法の研究・技術開発に努める。

④コンプライアンス

- 生物多様性に関する法令(生物多様性基本法)および環境法令を遵守する。

⑤コミュニケーション

- 生物多様性の保全と持続可能な利用への取り組み内容等について、ステークホルダー(利害関係者)とのコミュニケーションに努める。

(2011年2月1日施行)

工事現場における取り組み

土木の工事現場では生物多様性行動指針に基づき、工事による周辺環境への影響を極力少なくするようにさまざまな取り組みを実施しています。

工事現場に生息する動植物の生態系の保全や地球環境に配慮して、地域の動植物と共生できるような工事現場の実現に向けた工夫を行っています。

土木の工事現場における生物多様性に対する取り組みを表1に示します。

表中の取り組みのうち、巴農場樋門工事と大井野工事における取り組みについて詳しく紹介します。

■表1 工事現場における生物多様性への取り組み

現場名	取り組み内容
巴農場樋門工事	ヤツメウナギなどの魚類保護のため、薬品を使用しない濁水処理を行った。
穂別トンネル西工事	重金属類判定溜池(シート張)に動物が落下した時、シートで滑って脱出できなくなるのを防ぐため、木製梯子を設置した。
岩中工事(トンネル)	トンネルから排出される濁水の処理に伴い、沈砂池に水質チェック用のコイを稚魚から飼育、繁殖させた。
麻生トンネル工事	トンネル吹付けバッチャープラントをこげ茶色に塗装して猛禽類の視覚対策を行った。
大井野工事	地元に生息しているゲンジボタルの生態に配慮した河床構造へ変更した。

巴農場樋門改築工事

巴農場樋門改築工事は、北海道の石狩平野を流れる一級河川石狩川左岸に位置し、既存の樋門(巴農場樋門)の老朽化に伴い、新たな樋門の築造を行う工事です。当該工事付近では江別漁協がワカサギ、ヤツメウナギなどの漁業を営んでいます。また、旧幌向川は生物の生息・成育にとって貴重な環境であり、社会的にも有用な場所です。ここでは、工事中における水質汚濁対策の一部を紹介します。

現場では、薬品を使用しない濁水処理機を使用しましたが、処理能力の大きい機械は高価であるため、バイオログをフィルターに使用した沈砂池を設置することにより、現場内のエリア分けをして、10m³/hと小さな処理能力の機械を採用しました。処理効果としては、放流基準は、200mg/L以下に対して50~100mg/L程度に落とすことができました。



▲バイオログフィルター設置状況



▲濁水処理機(処理能力10m³/h)

大井野工事

工事敷地内にある付け替え河川の河床は、当初設計ではコンクリートに粗石を埋め込む構造で計画されていました。工事にあたり、地元の里山委員会等より、生息しているゲンジボタルの生態に配慮した河床構造へ変更してほしいとの要望を受け、河床構造を変更しました。

ホタルの生態系は以下に示す特徴があります。

- ①ホタルの餌となるカワニナは、岩などに付着した砂礫の間に潜り込んでいる。
- ②カワニナの餌は、泥中や石面に付着した珪藻、水草、落ち葉類である。
- ③ホタルは水際の木や草、岩についた苔類に産卵する。
- ④星は川底の石や砂礫の中に潜み、夜にカワニナを探す。

このようなホタルの生態に配慮して、下記に示すように、空隙率の高いポーラスコンクリートで製作した直径25cmの球形ブロック「ポラカブル」を河床に設置しました。

「ポラカブル」の設置により、ホタルの餌となるカワニナの生息やホタルの産卵のための珪藻類や苔類が付着しやすくなり、ポラカブルに根づいた植物などにより変化に富んだ水流が期待できます。



▲ポラカブル設置状況



地域社会とのつながり

建設業は工場の局面ごとに地域社会の皆様とさまざまな関わりあいを持ち続けていきます。鴻池組は地域の人びとを笑顔にできるよう地域のニーズに即した取り組みを行っています。



現場見学で笑顔に

工事現場で実際にどのような仕事が行われているか、普段地域の方々をご覧になる機会はなかなかないと思います。鴻池組では現場見学会を積極的に開催し、工事現場で働く従業員が地域の方々と直接対話することで、工事の安全性や意義をご理解いただき、少しでも不安を解消できるように取り組んでいます。また、現場見学会への参加を通じて、普段はできない体験をしていただきたいと考えています。特に小学生の現場見学会や中学生の職場体験等、子供たちの社会見学、社会参加の機会の創出に積極的に取り組んでいます。



▲鴻池組職員による小学校児童への工事説明【京都第二外環状道路長岡京高架橋下海印寺工区工事】(京都府長岡京市)
▲現場見学に参加した児童による研究発表

長岡第五小児童
測量機や重機
「工事現場見学」
最新機能を体験

京都第一外環状道路 初めて企画した、5年(にそと)はO1と生140人と保護者が年度末の完成予定で、総合的な学習の時間市内で工事進んでいる、本職建設士地をみる見学会は、市と京訪れた。測量機やPTAと協力し、児童たちは、測量機に校内で行われてる最新システムを体験し、その本職現場を学ぶ。測量機や重機、測量機を体験する児童(長岡京市下海印寺)。

(京都新聞掲載記事より)

※「にそと」とは京都第二外環状道路の略称です。

Voice

現場所長の声



京都第二外環状道路長岡京高架橋下海印寺工区工事事務所長 原 暢夫

■ 地域の方々の挨拶が励みに

私たちが工事に着手するときには、今まで静かな地域の中に、よそ者が来たと思われがちですが、長い工事の間、この場所で毎日仕事をしていく中で、地域の皆様との交流を積極的に行い、近隣の方々の不安を解消し、工事の内容を少しでも理解していただけるような現場にしたいとつねに考えています。

今回、小学生の現場見学会や中学生の職場体験などを行ったり、地域のボランティアに参加していく中で、子供たちから「おっちゃん、おはよう」、近隣の方か

ら「ごろうさん」「暑い中、大変やな」と声をかけていただけようになり、それがとても励みになっています。

また学校の先生方、PTAの皆様方との関係も深まり、地域の皆様においてもこの工事現場が、興味や関心のある場所になったのではないかと感じております。

これからも引き続き、地域の行事に積極的に参加し、よりよい地域との関係づくりを目指して、現場運営をしたいと考えております。

地域の人びとを笑顔に

工事現場を囲む高い塀は危険回避のためにはなくてはならないものですが、時には不安や圧迫感を与えてしまうこともあります。

鴻池組では仮囲いのデザインを工夫したり、展示パネルや緑を配置することで少しでも安心感を感じていただけるよう取り組んでいます。

また、イルミネーションなどにより街の皆様を楽しみを提供する工夫も行っています。



▲隣接する幼稚園の先生に絵を描いていただきました【(仮称)光華女子学園70周年記念棟新築工事】(京都府京都市)



▲クリスマスイルミネーション【本町南ガーデンシティ】(大阪府大阪市)

社会貢献活動で笑顔に

「愛の献血運動」への協力

名古屋支店では、従来より日本赤十字社 愛知県赤十字血液センター様に協力させていただき、献血活動に参加しています。

名古屋支店ビルまで献血バスを出していただき、当社従業員だけでなく、同じ建物に入居されている会社の方々にも献血へのご協力を呼びかけています。

2009年度の献血者数は10年前と比較すると約80万人も減少している一方、どんなに医学が進歩しても血液だけではつくりだせないそうです。

実際に経験してみると、献血に対する不安も一掃されリラックスして過ごすことができます。私たちのちょっとした行動が人びとの助けになることが実感でき、これからも従業員一同取り組んでいきたいと考えています。

私たちは献血推進キャンペーンを応援しています。

医療に必要な血液を献血によって安定的に確保するために、献血に積極的に協力していきます

Voice

血液センター 職員の方の声

■ 長期にわたる協力に感謝します

株式会社鴻池組名古屋支店の皆様には、1986年から26年間にわたり献血にご協力いただいております。2009年からは献血に積極的な企業として「献血サポーター」に参加していただいております。

近年の医療技術の進歩と高齢化に伴い、医療の需要は年々増加しておりますが、輸血用血液はまだまだ人工的につくりだすことができません。一方、昨今の厳しい社会情勢ならびに少子高齢化に伴う献血人口

の減少の影響を受け、献血者の確保には日々大変苦慮しているのが現状です。血液センターとしては、医療に必要な血液を安定的に確保するためには、鴻池組様をはじめとした団体の皆様による計画的なご協力が不可欠となっておりますので、このような会社を挙げた取り組みは非常にありがたく、今後もさらなる企業、団体の皆様との協働の場を広げていけるよう取り組み続けていきたいと考えております。



日本赤十字社 愛知県赤十字血液センター 推進一課係長 長谷川 能成 様

海外の人びとを笑顔に

HIV/AIDS教育を実施

鴻池組は1958年より海外でも事業を展開しており、現在ではアフリカ、アジア、中南米、南太平洋方面へと幅広く活動の範囲を広げ、現地の方々とも工事を超えたつながりを育むように努めています。その活動の一つとして、海外工事事務所では医療施設や、海外協力隊などと連携して、継続的にHIV/AIDS教育を実施しています。鴻池組の工事事務所のある東アフリカのビクトリア湖周辺ではHIVの感染率が10~15%(サハラ以南は5%)と突出しており、参加者の関心が高く、鋭い質問も多数寄せられ、非常に有意義な教育となりました。



▲工事事務所でのAIDS教育【ケニア共和国】



▲地元大学生への現場見学会【ザンビア共和国】

海外現場見学会を実施

ザンビアの工事事務所では地元大学の土木・建築工学部学生を対象とした現場見学会を行い、施工・品質・安全管理方法などの説明を行いました。見学者のほとんどが、将来のザンビアを担う技術者となる人材なので、見学時には、専門的な質問が多く、関心の高さが感じられる見学会となりました。

一人でも多くの方を笑顔にできるように

鴻池組は毎年「書き損じハガキキャンペーン」と「チャリティカレンダー市」へ協力しています。今年度は書き損じハガキ81枚と1,117冊のカレンダーを寄贈させていただきました。

協力会社との協働

協力会社の方々を含めた「チーム KONOIKE」として品質向上に努めており、これを支援するシステムについてご紹介します。



KISSとは

構築の目的

KISSとは鴻友会(鴻池組の協力会社で構成される組織)インフォメーション・シェアリング・システムの略称で、SNS*(ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス)の仕組みを利用した情報共有システムです。現場における生産性向上と工期短縮を目的として、具体的な合理化案を分かち合い、その成果と問題点の水平展開を行うことで、高品質・低コストでの施工を実現していきます。

*SNS…社会的なネットワークをインターネット上に構築するサービスで、人と人のコミュニケーションを促進する手段や場を提供している。

KISSの機能

KISSには、「グループ」および「レポート発信」の2つの大きな機能があります。「グループ」には、以下の3つの機能が備わっています。

①「情報共有掲示板」機能

ディスカッションや情報共有の場として利用できます。

②「イベント」機能

会議やイベントの招集・出席管理などを行うことができます。

③「ダウンロード」機能

提出書類のフォーマットなどを簡単に入手することができます。

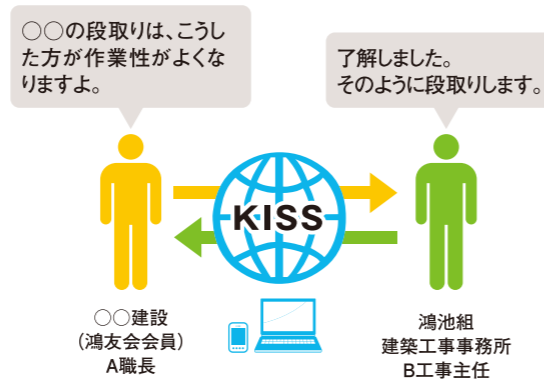
また、「レポート発信」はKISS利用者一人ひとりが情報を発信することができ、近況報告や自社アピールなどさまざまなことに利用できます。

KISSの可能性

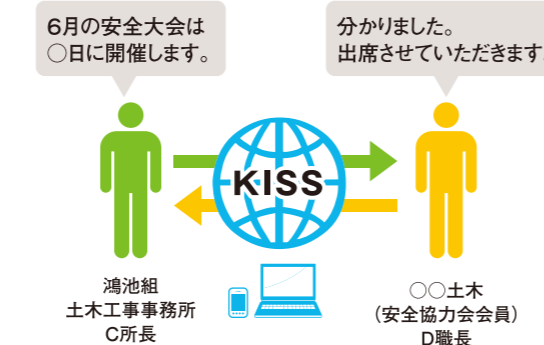
KISSは鴻友会がメインとなって作り上げたシステムであり、今後の運営も鴻友会が中心となって行っていく予定です。旧来のように元請が一方的に行う取り組みではなく、KISSを通じて元請と協力会社がお互いの垣根を取り払い、新しい関係を築いていくことができる取り組みです。KISSの積極的な利用により、「チームKONOIKE」としての結束力が強まり、それが現場力の向上、受注量の増加につながっていくことを期待しています。また、システムの利用に関しては、パソコンだけでなく、さらに利便性を上げるために、スマートフォンなどでも利用できる環境を整えつつあります。

■ KISSの概念図

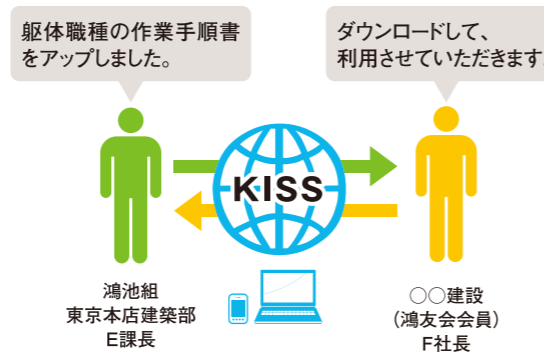
①「情報共有掲示板」機能



②「イベント」機能



③「ダウンロード」機能



「KISS」の導入について

Voice

鴻友会の声



鴻友会東京支部 支部長
後町 広幸 様

■ KISS構築のきっかけ

非常に競争が激しい建設業界の中で、従来やり方を続けていては、これからの時代を勝ち残っていくのは難しいと感じていました。今われわれに求められているのは「現場力の向上」です。どうすれば現場力・生産性を向上させることができるかを進めるにあたり、従来のように、職員・職人の知恵や経験といった暗黙の力に頼るのには限界があることは明らかでした。そこで、今までブラックボックス化されていた職員・職人の技術、知恵、経験を誰にでも理解できるよう可視化し、工事施工に関する有効・有益な情報の集積と水平展開をはかり、現場間で情報共有を進めることで、組織力を上げることが重要であるとの思いに至りました。その情報共有化のインフラとして、KISSを構築しました。

■ KISSに期待すること

KISSは、協力会社が主体となって作ったシステムです。それを育て、有効に使っていくことで、鴻池組の競争力アップ、ひいては協力会社への安定的な発注と技術力向上につなげていきたいと考えています。職長サミット活動と連携させることで優秀な職人を育てていき、鴻池組と一緒に仕事をしたいという職人を増やすことで、「チームKONOIKE」としての結束が強まります。KISSには、各職種が相互理解と協力をしていくための重要な役割を期待しています。今までFAXなどで行っていた安全協議会開催などの連絡もKISSを通して行うことで、事務的な手間が減り、通信費などのコスト削減も可能となります。

Voice

「KISS」利用者の声



佐々木土木株式会社 土木部 土木部長
菅 隆善 様

■ 積極的な利用で生産性の向上を

KISSが導入されて半年近くが経ちましたが、まだまだ試行錯誤のところもあります。情報の共有という面では大きなメリットを感じており、実際に東日本大震災に対する義援金を募ったときには大いに威力を発揮しました。また現場の進捗状況などが写真でアップされるため、目で見ることができて非常にわかりやすいと思います。通常、現場の職長は日中なかなかパソコンを見る時間が取れないので、今後スマート

フォンなどでも見るように改良を加えていくとのことであり、そうなればさらに使い勝手もよくなると思います。KISSを生産性向上につなげていくには、実際に現場で働く職長がどれだけ積極的に利用するかにかかっているので、私も積極的に利用して、他の職長にもこのシステムのよさを広めていきたいと思っています。

■ 利用者の増加で相乗効果を

KISSを使い始めて、現場仕事の連絡などを資料や写真を添付して簡単にできるようになったのは、非常に便利と感じています。また今まではわざわざ集まって全体会議を行っていたものが、KISSを利用することで、その必要がなくなり、時間の有効利用につながっています。以前の現場で採用した工法などを、KISSを通して写真で見てもらえることができたため、打ち合わせなどもよりスムーズに行えるようになりました。

新着情報などがあればEメールで通知がくるので、使い勝手もよいと思います。現在は、各現場で生産性の向上につながるさまざまな情報をアップしているところですが、利用者が増えれば増えるほど有益な情報も多く集まり、それがさらに利用者を増やすという相乗効果を生んでいくので、今後も有効に利用していきたいと思っています。



東京本店 (仮称)鎌ヶ谷翔裕園増築工事 工事事務所長
久米 健一

働きがいの向上のために

働きがいを高めるための、「経営参画意識の醸成」と「仕事と生活の調和」を目指した活動についてご紹介します。



イノベーション会議の実施

若手社員に経営参加の機会を与えることで意欲を高めるとともに、次世代のリーダーを育成することを目的に、2009年度よりイノベーション会議を実施しています。

過去の討議内容から実際の経営に反映された事例、ならびに現在実施されている第2期会議参加メンバーの声を紹介します。

第1期イノベーション会議メンバーによる討議は、鴻池組の右のような経営改革、業務改善に反映されました。

- 設計部門にあって、よりお客様目線の活動を行う「企画営業設計グループ」の設置
- お客様満足度向上に向けた「お客様アンケート」の開始
- 営業部門の若手従業員補強
- 積算料のコスト監視体制強化
- 建築部門における「OJTカルテ」の全国展開

「仕事と生活の調和」に向けた取り組みの推進

「仕事と生活の調和」アクションプラン

「働き方をChange!」をスローガンに「仕事と生活の調和」に向けたアクションプランを定め、その推進に取り組んでいます。

アニバーサリー休暇取得アンケート

休暇取得に向けた動機づけの促進を目的に、2010年9月に「アニバーサリー休暇制度」を新設しました。制度を利用して休暇取得した従業員に対し、取得理由や動機づけとしての有効性を尋ねた結果を以下にまとめました。

Voice

参加メンバーの声



大阪本店
土木技術部 技術課 主任
山口 充

■ 参加者全員で「考える」

会社をよくするために「何を变えなければならないのか?」を合言葉に、非常に活発な討議が行われ、建設的な意見が出されることに驚くとともに、自分の周囲にこんな素晴らしい考えを持った仲間がいることに頼もしさを感じます。

会議は、薫田社長直轄の討議の場ということもあり、決定事項が即座に経営に反映されることから、

スピーディーに変化を具体化する意味で大変重要な位置づけの会議と考えています。

これからも、普段の自分の業務から一歩離れて、参加者全員が「考える」ことにより、会社にとって、そして自分自身にとってさまざまな効果が得られるよう、有意義な会議にしていきたいと考えます。



大阪本店
建築工事事務所 主任
片山 修司

■ 全員参加で改革を!

第2期イノベーション会議メンバーの募集があり、私自身も以前より少しでも経営に参加したい、また社長に直接発言できる機会がほしいという思いで応募しました。

会議では、若手職員からテーマに沿った意見が活発に出され、社長をはじめ参加メンバーで議論し、「緊急性のあることはすぐに実行に移す」「多額の費用

が掛かるプロジェクトは、実行年数を明確化しそれに向け計画する」という具体的な内容が多く、会社の経営に参加しているという実感を得ています。

今後は時代の変化に合ったテーマを、より早く具体的に経営につなげるようにしていきたいと考えています。

仕事(会社)と生活(個人)の調和の推進

働き方をChange!

しっかり仕事して、きっちり休む
～時間は自分でコントロール～

やりがいのある仕事と充実した生活のバランスをとりながら、持てる能力を最大限に発揮する

会社	個人
会社が個人へ 一人ひとりの意識改革・ 働きがいの向上への支援	個人が会社へ 能力の向上・新たな価値 創造による会社への貢献
会社が目指すもの 誰もが働きたいと思い、 胸を張って次世代に 引き継げる会社	個人が目指すもの 生きがい・働きがいに あふれた企業人・家庭人 としての自立

できることから始めよう!

1. 閉所日を組み入れた工程の立案と確実な実行
一斉土曜閉所の推進【1回/月】
2. 時間内に効率的に働くワークスタイルの確立
NO残業デーの実施【2日以上/月】
3. 休暇取得の推進
有給休暇取得推進日の活用
現場特別休暇(社休)の取得【6日以内/年】
アニバーサリー休暇の取得

アニバーサリー休暇取得アンケート

対象者：24名 回答者：17名(71%)

質問① 取得理由

結婚記念日	6
子女の入卒業式	5
自分の誕生日	3
家族の誕生日	1
その他	2
合計	17

質問② 有給休暇の取得推進(新たな動機づけによる有給休暇取得意識を高める)になったか

取得しやすい環境となった 17

- 家族の誕生日など、固定した休みを毎年取得しやすくなった
- 気軽に取得できるようになった
- 今までは、誕生日や結婚記念日など、こんな理由で休んでもいいのかとの感があったが、気兼ねなく取得できた
- 元々、家族のイベントには積極的に参加するよう上司からの指示があったため、取得推進というより継続であった

質問③ 取得してどうでしたか

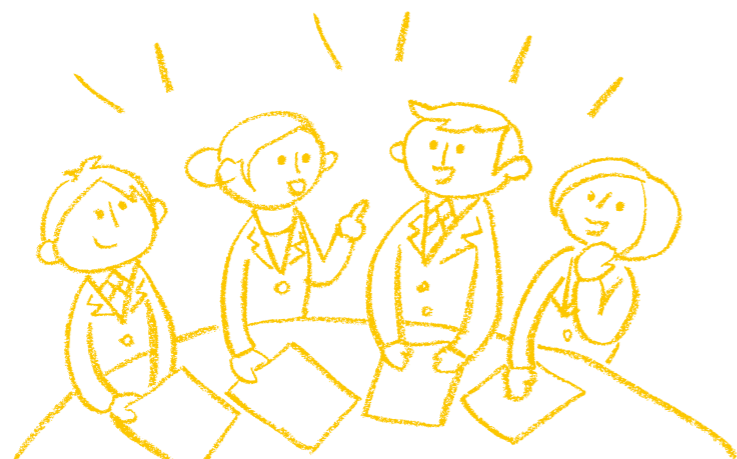
有意義(リフレッシュできた)であった	11
子供の成長の節目に立ち会え大変よかった	3
仕事を気にせず楽しめた	1
その他	2
合計	17

質問④ 今後もアニバーサリー休暇を取得したいですか

取得したい	16
その他	1
合計	17

- いろいろな記念日で取得をしたい
- 記念日が特に思いつかないで取得するかは未定
- 子供の行事に合わせ積極的に取得したい

総評 アンケートの結果、多数が本制度ができたことを好ましく思っている。新たな休暇取得の動機づけとして本制度導入はよかったと感じる。しかしながら、アンケートの中で本来有給休暇を気兼ねなく取得できる環境が必要との意見もあり、より一層の有給休暇取得推進の必要を感じた。



信頼に応える体制づくり

つねに「信頼される企業」であることを目指して、鴻池組は透明性と健全性の高い経営体制の構築に努めています。また、経営とCSRを一体のものとして捉える体制づくりを行っています。

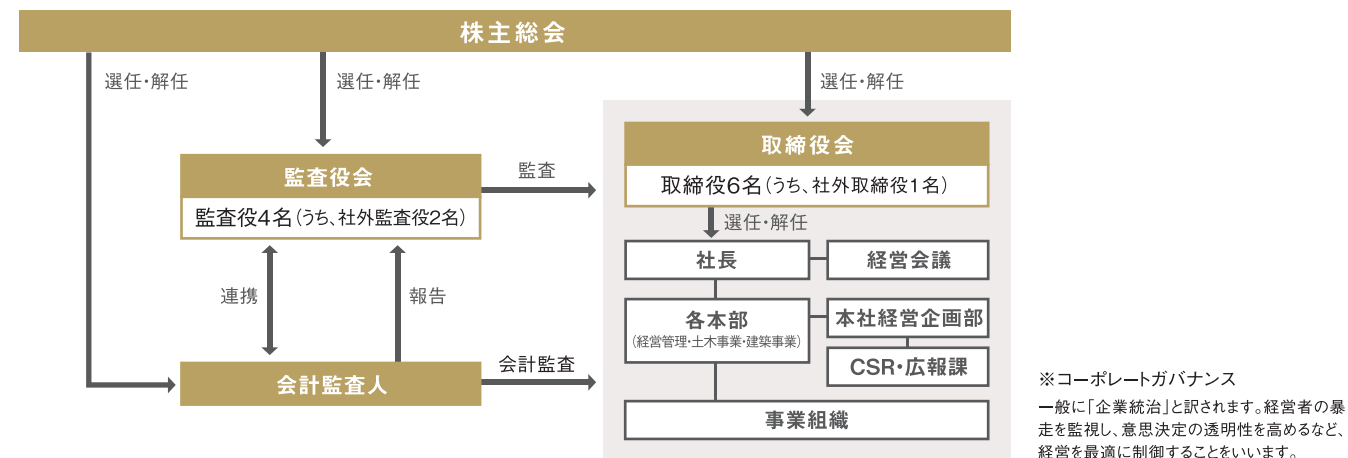
コーポレートガバナンス

取締役会は6名で構成され、うち1名が社外取締役です。また、機動的な人事を行うため取締役の任期を1年としています。

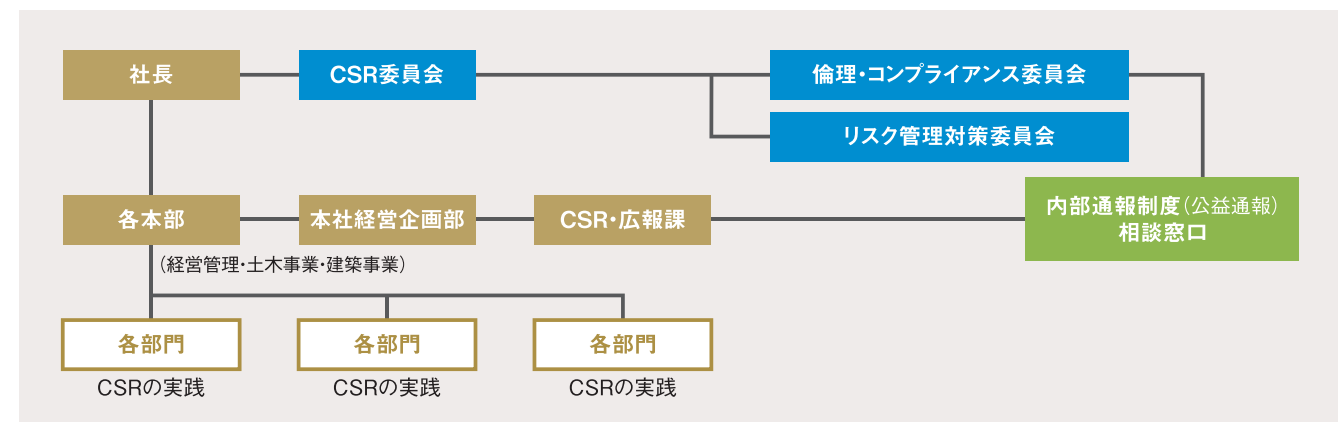
社長が議長を務める経営会議は、会社経営に関する重要事項の審議を行うとともに、各本部長およびその他の業務執行責任者が会社の業務執行に関して意見を述べる場として毎月開催されています。こうした経営層の意思疎通を欠かさぬことで、バランスの取れた経営判断を行う体制としています。

監査役会は4名で構成され、うち2名が社外監査役です。年4回および必要に応じて随時開催される監査役会では、監査方針の決定、会計監査人からの報告聴取、必要に応じて取締役などからの報告聴取を行うとともに、監査結果などについて監査役相互に意見・情報交換を行っています。

■ コーポレートガバナンス体制



■ CSR推進体制



CSR推進体制

鴻池組のCSR推進体制は、社長を委員長とし、関連役員をメンバーとする「CSR委員会」を中心に構築しています。同委員会は、CSRの取り組みに関する施策などの意思決定機関として、CSR推進活動の定着と継続を図っています。さらに「CSR委員会」の下部組織として「倫理・コンプライアンス委員会」、「リスク管理対策委員会」を設置し、CSR推進活動を総合的に実践する体制を整えています。

また、CSR推進専任部署として本社経営企画部に「CSR・広報課」を設置し、CSR推進計画の策定、CSR推進体制の継続的改善、CSRに関するモニタリング、CSR関連委員会の運営、CSRに関する社内啓発活動など、専属者による部門横断の取り組みを企画、実行しています。

企業の持続性を高めるために

鴻池組は事業活動に伴って発生するさまざまなリスクを早期に把握し、その影響を最小限に抑えるための体制整備に努めています。

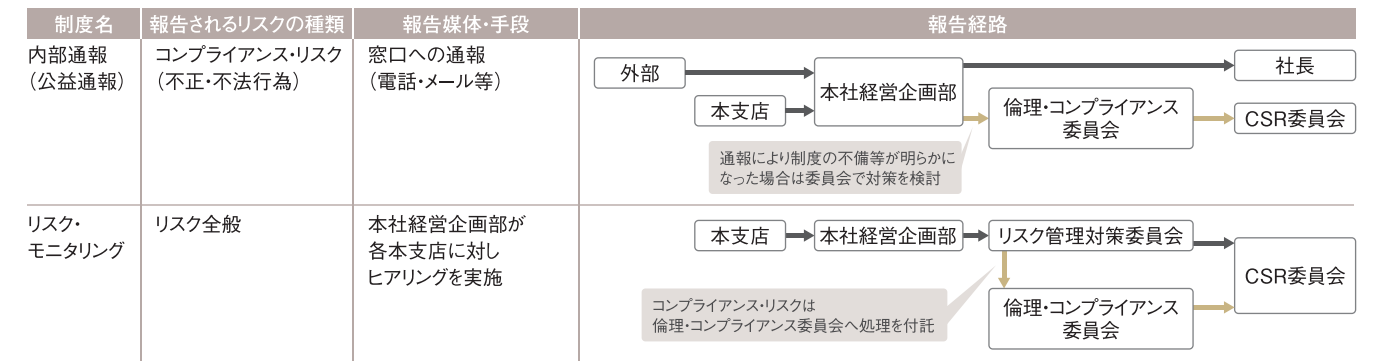
リスクの低減に向けた取り組み

潜在するリスクのピックアップ

事業活動に伴って発生するさまざまなリスクについては、そのリスクが顕在化する前に抽出し、その要因を除去することが求められます。

鴻池組では、公益通報者保護法に準拠した内部通報制度やリスク・モニタリング制度を整備し、潜在的なリスクの早期把握とその要因の除去に取り組んでいます。

■ 潜在するリスクのピックアップ

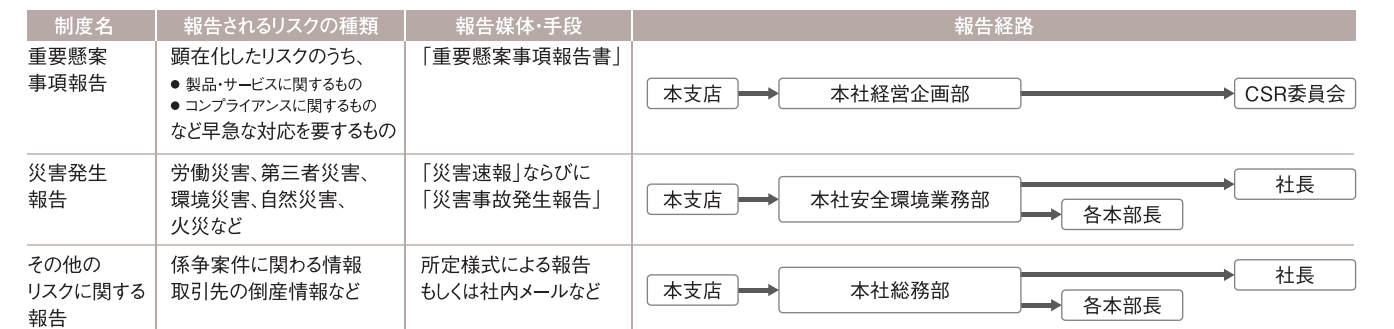


顕在化したリスクの情報集約と対応

一方、顕在化したリスクに対しては、迅速な判断と対応が求められます。そのため鴻池組では、顕在化したリスクの種類に応じて、CSR委員会もしくは社長を中心とする経営層へ情報を迅速に届け、瞬時に的確な対応をとれるように体制を整備しています。

また、顕在化したリスクへの対応やその後の経過については、CSR委員会ほかの会議において定例的に報告され、事態が収束に至るまで、会社として目を離さない仕組みになっています。

■ 顕在化したリスクの情報集約



危機管理体制の強化

鴻池組では、大規模な災害発生を想定した「危機管理対策要綱」を定めるなど、事業継続計画の整備と危機管理体制の強化に努めています。今般、災害発生時の従業員安否確認について、送信者の位置情報を地図上にプロットするシステムを新たに導入

し、災害の程度を地域別に可視化することで、重点支援地域へのサポートや拠点別の事業継続性の判断などを迅速に行える仕組みを整備しました。

情報マネジメント

より効率的・効果的な情報化推進とITの積極的活用——。
全社的な観点から情報システムのあり方を見直し、内部統制や情報セキュリティのさらなる強化を目指します。

鴻池組では、お客様の情報や個人情報など、企業が取り扱うさまざまな情報を適切に管理することが企業活動を支える重要な要素であると考えています。

そのため、全社的な観点から情報システムのあり方を検討・検証し、内部統制や情報セキュリティのさらなる強化を推進します。

システム検討委員会

鴻池組では、システム構築全体計画を策定、実行する「システム検討委員会」を2009年度に設置し、活動を行っています。

活動方針と進捗

- 1 業務ならびにデータの可視化推進
- 2 大胆な合理化の推進
- 3 内部統制・情報セキュリティのさらなる強化
- 4 情報システム構築・運用体制の再整備

システム検討委員会では、これまでとすれば「部門最適」に陥りがちだった業務のシステム化に至るプロセスを抜本的に見直し、「全社最適」に軸足を移して中期的展望に基づいたシステム計画を策定、実行しています。

また、急速に変化する経営環境に対応するため、既存システムの改良・再構築や新たな課題への対策について、個別的な対応ではなく、関連する部門・システムとの調整を行い、実施計画や進捗状況を全社的な観点から統制する役割を担っています。

■活動計画



ホームページへのご意見・お問い合わせ

鴻池組のホームページは、当社の企業活動に関わるさまざまな情報について適時・適切に公開する場であると同時に、当社に関わるすべての人びとからのご意見やお問い合わせをいただくための重要な窓口でもあります。

ホームページの問い合わせ窓口にいただいたお問い合わせやご意見は、貴重なモニタリング資料として分析と課題抽出を行い、よりよいコミュニケーションの構築に役立てています。

2010年度にいただいたお問い合わせやご意見は138件に上り、関連する社内の各部門と情報共有を行い、対応に努めました。



◀お問い合わせ・ご意見のデータベース画面

動画版社長メッセージ配信

社長から役員へのアナウンスメントはどの企業においても行われるものです。

鴻池組では、メールなどの単なる文章発信ではなく、社長の込めた「思い」が直接役員へ届くように、ITを積極活用し、イントラネット上で社長の語りかけるメッセージを動画で配信しています。

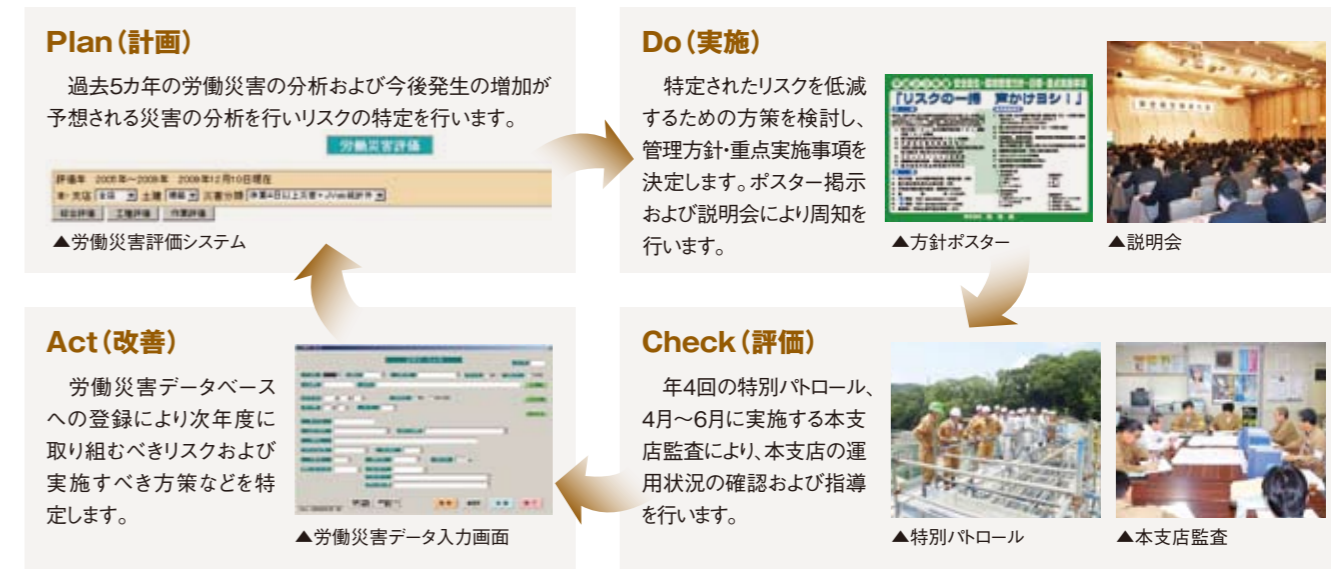


▲動画版社長メッセージ

安全マネジメント

建設現場における危険・有害要因を除去し、より安全で快適な職場づくりのためにPDCAサイクルをまわし、協力会社とともに災害防止に取り組んでいます。

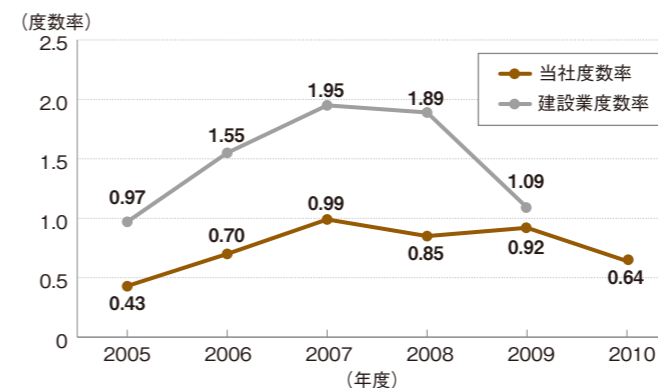
安全管理体制



安全成績

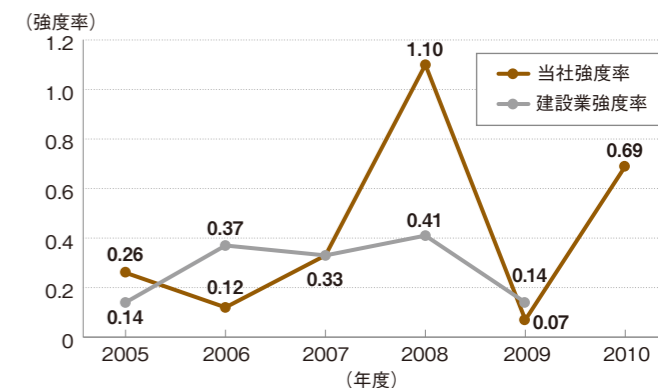
度数率

2010年度は、度数率は改善されましたが、解体工事において死亡災害が2件発生しました。災害発生に対して社内周知文書、教育資料を作成し、再発防止の徹底に努めました。



強度率

災害の大きさを表す強度率は、2010年度は死亡災害2件の発生により、2009年度より大きくなっていますが、死亡災害を除いた度数率は、0.05となり、軽微な災害発生が主体となっています。



安全表彰

工事事務所で取り組んでいる安全衛生活動に対して下記団体より表彰を受けました。

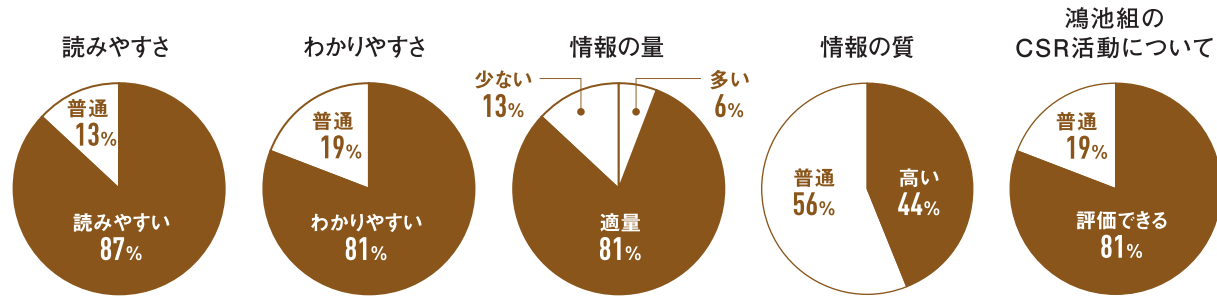
■2010年度外部表彰実績

表彰機関	賞名	工事名称
厚生労働省	奨励賞(厚生労働大臣)	中之島新線建設工事のうち土木工事(第1工区)
建設業労働災害防止協会	顕彰	第二京阪道路宮山工事
建設業労働災害防止協会	優良賞	岩倉駅東地区北街区第一種市街地再開発事業施設建築物新築工事

皆様の声にお応えします

「鴻池組CSR報告書2010 アンケート」により多くの貴重なご意見が寄せられました。ご協力をいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

報告書全体を通していかがでしたか



鴻池組のCSR活動、CSR報告書についてお寄せいただいたご意見

主なご意見・ご要望とその対応

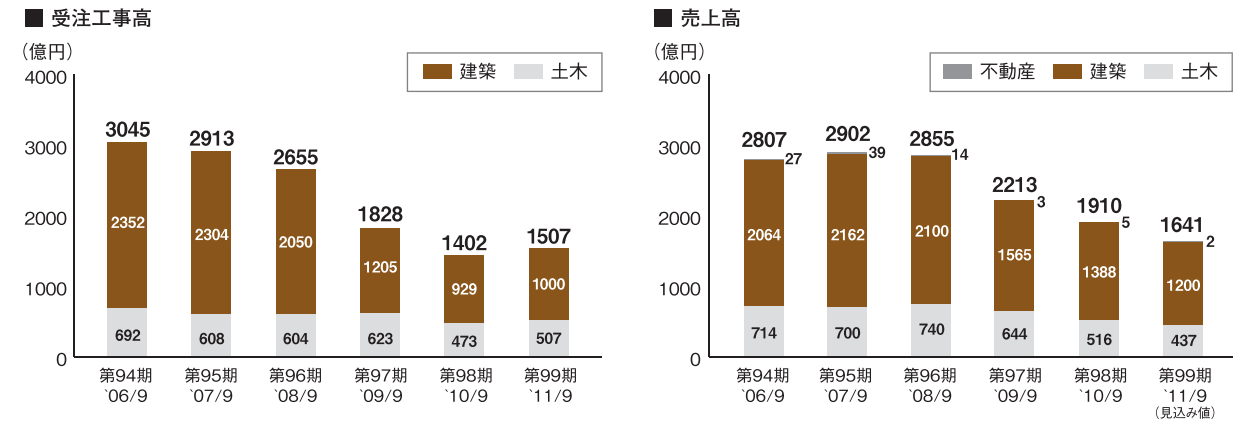
ご意見	表や写真が多く、とても読みやすかった。
鴻池組から	読みやすさと活動がいきいきと伝わることを最重視して制作・編集を行っております。お寄せいただいたご意見を励みに、さらに読みやすい誌面づくりを心がけてまいります。
ご意見	仕事と生活の調和について興味深く拝見させていただきました。
鴻池組から	「仕事と生活の調和」推進については、会社として最も力を入れている活動のひとつです。その一環として、「アニバーサリー休暇」制度を新設し、本報告書に休暇取得者の感想を掲載しました。制度を好意的に受け止める声が多い結果となっておりますので、さらなる取得推進に努めてまいります。
ご意見	対外的な広報活動をもっと活性化して、認知度を上げてもらいたいと思う。
鴻池組から	2011年10月1日付の組織改正で、経営企画室CSR推進課と本社総務部広報課を統合・再編し、経営企画部CSR・広報課といたします。CSR推進と広報活動を同一部署が担当することで、より積極的な周知活動を行っていく考えです。
ご意見	職長会による近隣の清掃活動に参加しましたが、工事全体の人のコミュニケーションが活発になり、よかったなと思いました。
鴻池組から	地域に溶け込んで仕事を行うという建設業の特性から、近隣住民の方々とのコミュニケーションは欠かせません。また、ご意見にありますように、こうした活動を職種を超え一体となって行うことで、現場内のコミュニケーションも良好になります。会社としてもこのような活動を推進していきますので、今後ともご協力をお願いいたします。
ご意見	企業として社会的責任を果たすことは、永続的な活動を行う上で大変重要であり、元請・下請に関係なく必要なことだと思います。協力会社も含めた活動があってもいいかと思います。
鴻池組から	トップメッセージ(P3)で社長も述べておられますとおり、協力会社の方々も含めた「チームKONOIKE」としての活動を重視しております。「チームKONOIKE」としてのCSR活動について、協力会社の皆様との協議の場で呼びかけていきたいと思っております。

会社概要

事業概要

創 業	明治4(1871)年
設 立	大正7(1918)年6月
資 本 金	52億5千万円
事 業 項 目	<ul style="list-style-type: none"> ① 建設工事の企画、測量、設計、監理、請負及びコンサルティングに関する事業 ② 不動産の売買・貸借及びその仲介並びに所有管理に関する事業 ③ 骨材及び砂利の採取販売に関する事業 ④ 建設用資材の製造及び販売に関する事業 ⑤ 不動産の鑑定評価に関する事業 ⑥ 前各号に関連する一切の事業
許 可	特定建設業許可 国土交通大臣許可(特-19)第2399号 建設コンサルタント登録 建(21)第101号 測量業者登録 第(9)-7302号 宅地建物取引業者免許 国土交通大臣(12)第1268号 不動産鑑定業者登録 東京都知事(1)第2209号

受注・売上実績



■ 本社ならびに本支店所在地

事業所名	郵便番号	所在地	電話番号
本社・大阪本店	530-8517	大阪府大阪市北区梅田3-4-5	06-6343-3500
東京本店	136-8880	東京都江東区南砂2-7-5	03-5617-7500
北海道支店	060-0061	北海道札幌市中央区南一条西14-1	011-271-4141
東北支店	980-0021	宮城県仙台市青葉区中央2-9-27	022-266-1275
横浜支店	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町74-1	045-201-2831
名古屋支店	460-0003	愛知県名古屋市中区錦2-19-1	052-202-4500
京都支店	604-8151	京都府京都市中京区蛸薬師通烏丸西入ル橋弁慶町227	075-211-5116
神戸支店	650-0024	兵庫県神戸市中央区海岸通4	078-331-6857
広島支店	730-8533	広島県広島市中区八丁堀2-31	082-228-1161
山陰支店	690-0887	島根県松江市殿町516	0852-22-1551
九州支店	810-0041	福岡県福岡市中央区大名1-14-45	092-721-5025
南九州支店	892-0825	鹿児島県鹿児島市大黒町2-11	099-225-0321
海外事業部	136-8880	東京都江東区南砂2-7-5	03-5617-7860
技術研究所	305-0003	茨城県つくば市桜1-20-1	029-857-2000